

2023 年度

事業計画書

社会福祉法人 香南会

目 次

香南会事業運営方針	P 1 ~ 2
業務管理体制に基づく業務監査	P 3
◎総務部	P 4
◎経理部	P 5
◎人事部	P 6
◎教育部	P 7
◎登録支援機関(特定技能・介護)	P 8
◎栄養管理部	P 9 ~ 10
◎防災安全危機管理部	P 11
◎システム部	P 12 ~ 13
◎請求管理部	P 14
◎事故対策室	P 15
◎総合福祉ゾーンはまゆうの里	P 16 ~ 36
◎総合福祉ゾーンオークの里	P 37 ~ 46
◎総合福祉ゾーンキセキレイの里	P 47 ~ 55
◎総合福祉ゾーンもとちかの里	P 56 ~ 73
◎総合福祉ゾーン天空の里	P 74 ~ 81
◎総合福祉ゾーンやだけの里	P 82 ~ 87
◎赤とんぼの里	P 88 ~ 94

◎特別養護老人ホーム 安寿の里	P 95 ~ 96
◎新居浜事業所	P 97 ~ 102
◎専修学校 香南学園	P 103 ~ 104
◎特別養護老人ホームおおいずみの里	P 105 ~ 106

2023 年度事業運営方針

法人の基本理念の下、ご利用者・ご家族の皆様に安心していただけるような生活環境の創造に努め、社会福祉法人の使命として地域社会の福祉の充実・発展に寄与すべく事業運営に努めてまいります。

また、法人として将来を見据えた施設整備、人材育成に努めてまいります。

感染症対策には引き続き取り組みながら、2023 年度は次のとおり重点目標を定め、取り組んでまいります。

1. 質の高いサービスの提供

◆4 大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる

- ・データを活用した多職種連携による質の高いサービスの提供
- ・施設長が中心となり各事業所のマネジメントに取り組む
- ・職員教育の充実

2. 経営基盤の安定に向けた取り組み

- ・各事業所は運営目標を明確に取り組むとともに、幹部職員の経営意識向上を図り、施設長は各事業所のマネジメントを行う

3. 施設整備の推進

- ・香南赤岡苑の改築・・・本部西側敷地に移転建築

- ・びわの里の移転新築・・・室戸高校西側敷地へ移転

- ・東京都の新たな公募に応募

4. 人材育成・確保対策

- ・人材確保対策（各職種）については様々な媒体を用い継続的に実施

- ・研修参加や資格取得を強く促進する

- ・外国人介護職員の能力アップを図る

5. 専修学校香南学園の運営

- ・介護福祉士養成機関としての使命を果たすため、学生の勉学・生活の支援
実施

6. 働きやすい職場環境

- ・各種休暇制度等の利用促進

- ・電子決済や web 会議の推進

7. 危機管理対策の推進

- ・事業所ごとに防災・防犯力の強化

8. 地域との連携

- ・コロナ禍で地域連携が困難な状況の中、工夫を凝らして地域住民との連携
を図る

業務管理体制に基づく業務監査

基本方針

法人が運営する各種事業について、施設長及び副施設長による業務監査（関係法令に基づいた事業の運営状況の確認と評価）を行うことにより、法令を遵守し業務を適正に遂行する。また、改正のあった運営指導マニュアル等に沿って、効率的な実施を目指すとともに、職員の育成を図る機会とする。

年度目標

- 1 関係法令を遵守し、適正かつ安定した事業運営を目指す。
- 2 厚生労働省の運営指導マニュアル等に沿って、効果、効率的な実施を目指す。
- 3 主任、管理者等が主体的に事業運営に携わることができるよう、必要な指導、助言を行い育成を図る。

総務部

基本方針

法人全体の事務業務を取り扱う部署として、法人の事業運営方針に従い各部署と連携を図り丁寧、迅速、的確に業務遂行に努めると共に、常に創意工夫、能力向上を念頭におき業務にあたります。

年度目標

- 1 円滑な法人運営ができるよう執行部の指示に従い業務に取り組む
 - (1) 社会福祉法等関係法令などの動向に、迅速に対応し知識を深め、法人運営に活かせるように努める。
 - (2) 社会福祉法に則り、常に迅速、正確な情報公開に努める。
 - (3) 業務管理体制組織図に従い、迅速かつ的確な事務処理に対応できるように努める。
 - (4) 庶務業務の省力化に努める。

- 2 施設整備事業等の推進
 - (1) 香南赤岡苑移転改築計画について関係部署と連携を図り、円滑に計画を推進するとともに諸手続きの迅速的確な対応に努める
 - (2) グループホームびわの里高台移転事業について、速やかな事業完成を目指し、諸手続き等遅滞なきよう努める。
 - (3) 東京都整備事業の情報収集および関係部署との情報共有に努める。

- 3 事業所内保育所やまもも
 - (1) 定員増員および移転改築計画について、円滑に計画推進できるように努める
 - (2) 事故防止、職員の質向上を目指し、外部研修に参加するとともに自己研鑽に努める。

経理部

基本方針

法人全体の財務状況を明らかにし、経営分析を可能とするとともに、外部への情報公開に資するものとして、関係法令に従い正確な財務諸表を作成する。

年度目標

1 会計監査について

- (1) 会計監査人の監査につき、会計基準との整合性はもとより、法令順守を徹底し、適切に対応にあたる。

2 運営収支および財政状態の把握について

- (1) 財務諸表作成に関して、実施する事業の区分を設け、収支状況を明らかにし、資料を用いて分析を行う。また、分析結果を会議等の場へ提供し、幹部職員が経営管理・戦略を行う上で、役立てるものとするができるよう努める。適時に、関係施設長等とヒアリングを実施し、共同して収支改善にむけ努める。

3 業務継続に向けた取り組み・文書の電磁的記録の推進について

- (1) 災害等が発生した場合であっても、必要な業務が継続的に実行できるような体制を構築、文書作成負担軽減や手続きの効率化による迅速化や情報共有を確保するため、文書の電磁的記録（電子決裁等）の推進を図る。

4 データ入力の自動化の推進

- (1) データ入力業務を効率的に行えるようにすることで、入力時間の短縮や入力ミスの削減をし、定型的業務以外の専門的な業務がより行えるよう努める。

人事部

基本方針

少子高齢化に伴う労働力人口の減少を踏まえ、育児や介護と仕事の両立を目指す働き方改革を着実に進めることで人材確保につなげます。また、介護人材の確保の困難さや若年世代の働き方への価値観や働く人材が多様化していることなど踏まえて、「働きやすさ」のために定着促進と離職防止の両輪で職場環境の仕組みの充実を図ります。

年度目標

1 持続的な人材確保

- (1) 専門職である社会福祉士、介護支援専門員、看護師、管理栄養士そして事務職員など福祉現場に不可欠な人材を安定的に確保できるよう若年世代や求職者の年代に応じた採用媒体を用い継続的に求人募集を実施する。
- (2) 外国人介護職員の確保・定着に向けて適正な処遇や互いに良好な人間関係を構築できる環境整備、生活面でのサポート体制の拡充を図る。また、看護師不足の解消や将来に向けた人材の確保のために外国人看護師の受け入れ態勢の整備を進める。

2 働きやすい職場環境の整備

- (1) 働き方改革に対応した取り組みを引き続き推進し、年次有給休暇取得率の向上、育児や介護休業等の積極的な取得促進のための周知、時間外労働の削減に努め、ワークライフバランスの実現を目指す。
- (2) 業務の効率化（ICTの有効活用）を図るため、電子決裁の更なる推進に取り組む。

教育部

基本方針

サービスの質を向上させるため、教育の充実を図ります。また、外国人介護職員の能力アップを図るために、業務の習得・日本語能力の向上を目指し、学習計画やOJT教育の充実に向けて取り組みます。

年度目標

1 質の高いサービスの提供

- (1) 各事業所で必要とされる研修内容を検討し、充実した研修が実施できるよう努める。
- (2) WEBでの短時間研修を用いて、各事業所内での意識統一を目指す。
- (3) 4大目標等の取り組み推進を継続し、介護のプロフェッショナルを育成することで、現場での事故防止に繋がるよう努める。

2 人材育成

- (1) 経験年数別に求められる職責を認識できるよう、指名制で内部及び外部研修の計画的な参加を図る。また、資格取得のための学習計画を立案し、有資格者の増員に努める。
- (2) OJT教育を充実させ外国人介護職員の能力アップを図ると共に、指導育成担当者(リーダー層)の管理能力が高められる職場環境の構築を目指す。
- (3) 特定技能生が安心して働ける職場として、適正な在留管理や支援を行う。また、日本語能力の向上及び介護福祉士国家試験を目標にした、学習計画の構築を目指す。
- (4) 配属先の職員に対し、外国人職員の受入に関する説明会を行い、双方のコミュニケーションがスムーズに行えるように努める。

登録支援機関(特定技能・介護)

基本方針

外国人介護職員の所属機関として培った知識と経験を生かし、登録支援機関として役割を地域から求められた際には、特定技能外国人に対して適切な支援の実施、在留管理を行います。

年度目標

1 支援体制の構築

- (1) 支援委託元に対し受入に関しての、手続き等の援助や助言が適切に行えるよう努める。
- (2) 法改正や制度の最新情報を把握することで、適切な対応をする。
- (3) 出入国在留管理局への届出等に不備がないよう留意する。

栄養管理部

基本方針

利用者のQOLに資する栄養ケア・マネジメントをめざし、「食べる楽しみ」のための支援の充実を図る。

年度目標

- 1 摂食嚥下障害、認知症などの困難な栄養問題を解決するために、多職種連携協働による栄養ケア・マネジメントの取組を一層強化する。
 - (1) 質の評価や、データ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスを提供する。
 - (2) データを読み解く力を高める。

- 2 新調理システムの調理・保存法を導入し、生産プロセスの構築と最適化に努める。
 - (1) 新調理システムのメリットやデメリットを理解し、合理的かつおいしい料理を提供する。

栄養管理部 用語解説

栄養ケアマネジメント：栄養状態のリスクを判定（スクリーニング）し、その評価・判定（アセスメント）のもとに栄養ケア・栄養プログラムを計画・実施する。これによる栄養状態の変化のモニタリングから、さらに評価し、この結果をフィードバックしていく過程。

QOL：クオリティ・オブ・ライフ

「生活の質」などと訳され、介護福祉や医療の現場において重要な指標であるとされている。一人の利用者にとって最適なサービスとは何か、またどう行動すべきかを定める際、最も優先すべき指標ともいえる。

新調理システム：従来の調理方式であるクックサーブに加え、クックチル、クックフリーズ、真空調理の調理法をさす。

クックサーブは、当日、食事時間ごとにその都度調理を行い、すぐに供する調理法のこと。

クックチルは、計画的に加熱調理した食材を急速冷却後に、チルド（0～3℃）状態で一定期間保存し、喫食時間に合せ再加熱を行い盛り付け料理を提供するシステムである。

クックフリーズの場合、工程はクックチルシステムと同じだが、冷却と保存の温度を、食材の芯温ベースで-18℃以下とする。真空調理とは、一例をあげると素材を下ごしらえした後に、素材を調味液と一緒に真空包装し、そのまま温度と時間管理が正確に行える加熱機器にて低温加熱する調理法である

防災安全危機管理部

基本方針

危機管理意識の向上と防災対策の構築を図り、各事業所との連携を強化し情報を共有し、災害発生時の対応、復旧対策や事故防止対策に取り組む。公用車両の取り扱い教育を実施し安全運転の啓発を行い交通事故防止に努める。各事業所の管理者と連携を強化し施設の老朽化点検を実施すると共に施設設備の維持管理に努める。

重点項目

- 1 防災訓練や防災関係の研修に積極的に参加し知識の向上に努め、BCP（事業継続計画）の運用や見直しを行う。実際の災害時を想定した施設全体の避難訓練を行い、災害時に早急に対応できるように努める。モコナビを使った連絡訓練、呼集訓練を定期的に行い災害時に即対応できる体制を整える。
- 2 南海トラフ地震等の非常事態に迅速に対応するため知識や情報を行政や地域社会と共有し、2023年度は総合福祉ゾーンキセキレイの里の南海トラフ地震優良事業所認定の取得更新を目指す。防犯講習を含む防犯訓練を各事業所で積極的に行い、防犯に対する意識を高める。
- 3 施設の老朽化点検や消防設備点検を定期的に行い、設備機器の維持管理及び施設内、施設の廻りの環境整備に努める。
- 4 運転業務、宿直業務を行う職員との面談を定期的を実施し健康状態の把握や業務上の相談ができる環境を整え職員が定着できるよう努める。
- 5 公用車両の維持管理を強化し安全に走行出来る体制を整備する。車両の走行距離の確認やオイル交換等のメンテナンスを行い故障、事故が起こらないよう努める。

システム部

基本方針

システム業務

業務システム全般の効率化と安定稼働につながるよう努める。また最新技術について随時導入可能であるかを見極めるとともに、昨今のランサムウェア等マルウェアの脅威に充分配慮したシステム構築となるよう本年度も運用を見直しつつ、セキュリティー上の安全を第一とした運用になるよう注意を払う。

年度目標

1 システム担当

- (1) 事業継続可能な持続性を持った、システム設計の随時見直し。
- (2) 2023年度では、次期システム（非境界防御型システム）に向けた根本的なネットワーク構成について見直し、初めの年とするようにしたい。既存の方法の中から、できるだけコストがかからない形で実現可能なものを目指す。

また、既存の設定項目を見直し、現状のシステム構成でもできるセキュリティー向上対策を行う。
 - ・AD Server 上の古い設定を見直し、ルールの厳格化を行う
 - ・Administrator アカウント使用の厳格化（使用ログの内部監視）等
- (3) ランサムウェアの猛威で休止せざるをえなかった、外部のインターネット環境から香南会ネットワークへの利用を、セキュリティーを緩めない形で、再度可能かどうかの検討を進める。
- (4) 決裁書・諸手続きの電子化をさらに進める。
- (5) システム業務全般で、効率化と改善点の余地がないかを、継続的に検討する。

システム部 用語解説

ランサムウェア

ランサムウェアとは、「Ransom（身代金）」と「Software（ソフトウェア）」を組み合わせた造語。身代金の要求を目的とした悪意のあるプログラムで、マルウェアの一種と定義できる。

マルウェア

マルウェア (malware) とは、英語のmalicious (マリシャス：悪意のある) に software (ソフトウェア) の2つの単語が組み合わさった造語。ウイルス (コンピューターウイルス) がユーザーの情報端末に不利益をもたらす悪意のあるプログラムやソフトウェアを総称する言葉。

非境界防御型システム

「境界防御型システム」が自法人ネットワークと外部ネットワークの境界線でセキュリティ脅威を阻止する防御のことを意味しますので、これを使用しない防御方法になります。一般的にファイアウォールやIDS (不正侵入検知システム) やIPS (不正侵入防御システム) が境界防御となります。

AD(Active Directory) Server

マイクロソフトが提供するWindows Serverの機能の一つで、管理するネットワーク上に存在する様々な資源やその利用者の情報や権限などを、一元管理することができるもの。

Administrator (アドミニストレーター)

Administratorは管理者のことであり、コンピュータやネットワークなどのインフラを良好な状態に保つ責務を負っています。

請求管理部

基本方針

法人が運営する施設等の請求業務（介護報酬、支援費、措置費、県費など）について、各々の法令に基づき正しく行えていることを確認、把握しコスト意識を心掛け安定した収入を確保する。

年度目標

- 1 毎月の請求業務について
 - (1) 各施設等からの実績情報を元に、請求ソフト（WINCARE）等に正しく入力できているか、入力漏れはないかなど正確に請求が行われていることを確認し、返戻や過誤がないように努める。
- 2 請求内容（体制、加算）について
 - (1) 各事業所の体制や算定している加算等の要件を把握し多方面から分析し継続して加算を算定できる、また新たに算定可能な加算を提案するなど安定した収入確保を目標に努める。
- 3 正確且つ迅速な業務遂行について
 - (1) 定期的な制度改正で算定できる加算などに変動があり、また人事異動に伴い事業所の管理者や相談員等が変わることも視野に入れ、常に正確迅速な請求業務を遂行するために事業所の形態別に研修会や、請求ソフト（WINCARE）等を上手に活用することで操作誤りも防ぐことができるという点を考慮し、操作説明会などを開催し各施設等（現場）と請求管理部が一体となって円滑な業務遂行に努める。また、関係職員（相談員、管理者など）を対象に各保険制度以外に、生活保護法や社福減免、原爆助成金など収入に関わる制度についての研修会等も開催し、収入に関する知識を深め経営意識の向上に努める。
- 4 報酬等及び利用者負担金の回収管理について
 - (1) 介護報酬等では返戻などにより請求漏れがないように、利用者負担金では長期未納とならないよう留意し関係部署と連携を取りながら回収管理を行う。

事故対策室

基本方針

医療介護事故に対する専門部署として、法人全体のリスクコントロールに努め、各ゾーンや事業所における医療介護事故のリスクマネジメントが十分に行える体制を整える。また、他部署や各プロジェクトチームと連携することで、より質の高いケアの提供に寄与し医療介護事故の低減を目指す。

年度目標

- 1 質の高いケアの提供に寄与し、医療介護事故の低減を目指す。
 - (1) 法人全体の事故の傾向と対策の把握
 - ① 現状情報収集システムでの事故分析と対策の立案
 - ② 個々の重大事故の検証と対策の周知・啓発
 - ③ リスクマネジメント体制の構築
 - (2) 各ゾーン・事業所におけるリスクマネジメント活動の強化
 - ① リスクマネジメント意識を持った介護方法の推進
 - ② 必要に応じた現地調査と管理者への結果と対策のフィードバック
 - ③ 管理者・主任向け研修の開催
 - ④ 現任研修における事故分析手法や対策の周知・啓発
- 2 事故予防・低減に関するアセスメント能力の向上やリスクマネジメント意識を持った介護の実践を目指し、各プロジェクトチームと連携した取り組みや支援を行う。

総合福祉ゾーン

はまゆうの里

- ・総合福祉ゾーンはまゆうの里 ……P18
- ・特別養護老人ホーム 香南赤岡苑 ……P19
- ・デイサービスセンター 陽だまり ……P20
- ・生活介護事業 いきいき ……P21
- ・ケアハウス ぬくもり ……P22
- ・ヘルパーステーションはまゆう ……P23
- ・ヘルパーステーションうみ風 ……P24
- ・ヘルパーステーションはま風 ……P25
- ・ケアプランセンター はまゆう ……P26
- ・グループホーム せんだんの里 ……P27
- ・グループホーム きんもくせいの里 ……P28
- ・グループホーム ゆうりこう ……P29
- ・グループホーム ふなとの里 ……P30
- ・老人保健施設しお風 ……P31
- ・老人保健施設しお風通所
リハビリテーション ……P33

- ・ 訪問看護ステーションあおぞら ……P35
- ・ 訪問看護ステーションキセキレイ ……P36

総合福祉ゾーン はまゆうの里

基本方針

法人の基本理念の下、多職種が連携し、蓄積された各種データ、情報分析等に基づいた質の高いサービスの提供を目指すとともに、主要職員を中心に経験等に応じ目標、期間を定め計画的な人材育成に努めます。その中でも外国人人材の育成については、人員の充足へ向けた重点課題として取り組みを推進します。また、安全安心な職場環境の構築を目指し、感染症まん延、非常災害等に備え BCP 及び BCM に取り組み、地域との連携を図る中で様々な事態に対応可能な職場環境の構築を目指します。

目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。

特別養護老人ホーム香南赤岡苑

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 優しく丁寧なケアを提供する。
 - ① 全職種が利用者個々の容態を把握し統一したケアを実施する。
 - ② 朝礼、パソコン機器、会議等を活用して利用者の情報共有を図る。
 - ③ 利用者、家族へ看取りについて情報発信し意向を的確に把握することで看取りへの取り組みを更に周知する。
 - (2) 収集したデータに基づいたケア方法を確立する。
 - ① 多職種協同でケアプランの見直しを図り、個々に応じた具体的なケア方法を検討しプランに反映させ実践する。
 - ② 事故、ひやりはっと報告を精査分析し、適切に対処することで重大事故を防止する。
- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 職員個々に応じた目標を定めスキルアップを図る。
 - ① 職員の経験年数等に応じた目標と役割を定め、研修及び資格取得に向けた計画を策定する。
 - (2) 外国人人材の個々に応じた目標を定め育成に取り組む。
 - ① 個々の能力に応じ指導マニュアルに沿って適切に指導する。
 - ② OJT を活用した指導を実践し、評価を行いながら個々に応じた業務マニュアルを作成する。
- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 地域ニーズを踏まえた事業運営を図る。
 - ① 関係機関と密に情報共有を図ることで地域の実情を把握する。
 - ② 計画的、効率的な広報活動を展開し待機者を確保する。
 - (2) 非常時の充実を図り事業継続に向けた取り組みを推進する。
 - ① 職員の防災意識向上のためマニュアルの周知を図り、被災時を想定した実践的で具体的な訓練を実施する。
 - ② 行政機関と連携を図り非常災害時の要支援者受入体制を整備する。
 - ③ 感染症の流行に備え感染症発生を意識した予防対策を講じる。

デイサービスセンター 陽だまり

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 個々の心身機能に応じた統一したケアを行う。
 - ① 情報共有、利用者の状態把握を行い、通所介護計画書を作成する。
 - ② 利用者個々に合わせたサービスを実施する。(個別活動、余暇活動)
 - ③ 家族や関係機関と連携を図り情報を共有する。
 - ④ ヒヤリ・ハット報告書を分析し事故防止に繋げる。
 - (2) 利用者の健康管理を適切に行い、事業運営の安定化を図る。
 - ① 個々の健康状態の観察を行い変化に気づく。
 - ② 担当者会議にて情報交換、情報収集を行う。
 - ③ 利用者の定着化と新規利用者の確保を目指す。(月平均稼働率 96%)
 - (3) 接遇マナーの向上に取り組み、利用者が不快なく過ごせるよう努める。
 - ① 挨拶や適切な言葉使いを徹底し、明るい雰囲気づくりに心掛ける。
 - ② 職員間の声掛けを増やし、協力、助け合いの意識を高める。
- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 内部、外部研修へ計画的に参加し、職員個々の意識、知識、技術の向上を図り専門性を高める。
 - (2) 各自が専門的な研修に参加しスキルアップを図る。(個々年1回以上)
 - (3) 伝達講習により情報共有を図り各自が実践に繋げていく。
- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 様々な自然災害に備え防災訓練や対策の強化を図る。
 - ① マニュアル、行動指針を確認し関係機関との連携を図る。
 - ② 計画的に防災訓練を実施し災害時の意識向上に努める。
 - (2) 働きやすい職場環境作りに取り組む。
 - ① 計画的に有給休暇を取得する。

生活介護事業 いきいき

年度目標

- 1 多職種による質の高いサービスに努める。
 - (1) 障害特性を把握した個別支援計画をもとに、個別支援計画一覧表を作成し効果的にケアの統一を図る。
 - (2) 利用者個々の課題に対し、ケアの内容、方法を職員間で話し合う検討会を設け、その都度、細やかにケアマニュアルの修正を行う。
 - (3) 各関係機関や家族と課題解決に向けた連携を図り、個別支援計画への反映を進めていく。

- 2 職員の経験等に応じ、計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 研修計画に沿って研修に参加し知識、技術の向上を図る。
 - (2) 職員毎に四半期目標を設定しスキルアップを図る。
 - (3) 経験年数に応じた外部研修への参加や資格取得を目指す。

- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 感染症対策の徹底を継続するとともに、利用者だけではなく職員個々の体調管理に努める。
 - (2) 送迎時の安全面に注意し、安全運転を心掛けて事故0件を目指す。
 - (3) 災害マニュアルの周知徹底を行い、災害時に各職員が臨機応変な行動が可能となるよう体制作りに努める。
 - (4) 年5日以上の有給休暇取得を計画的に行う。

ケアハウス ぬくもり

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 多職種協同で入居者へのケア方法を協議し、職員への周知を行い統一したケアを行う。
 - ① 入居者の状態把握を行い個別性あるサービス提供に繋げる。
 - ② 入居者の状況に合わせた福祉用具の選定、環境整備を行う。
 - ③ ガルーンスペースを活用し情報を共有し周知徹底を図る。
 - (2) 多様なニーズを把握し、入居者を中心としたサービス提供を目指す。
 - ① 運営懇談会にて入居者と意見交換を行う。
 - ② 入居者、家族の相談に適切かつ迅速に対応する。
- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 職員個々の意識、知識、技術の向上を図り専門性を高める。
 - ① 内部、外部研修へ計画的に参加し、専門的な知識、技術の習得に努めスキルアップを図る。
 - ② 伝達講習を行い知識、技術等の情報共有を図る。
 - (2) 職員の専門性を高めるための資格取得を目指す。(口腔ケア推進士)
- 3 BCP、BCMを軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 計画的な有給休暇取得を推進し、職員が安心して働くことのできる職場環境作りに取り組む。
 - (2) 住み慣れた環境で安全に生活を送れるよう防災対策の強化を図る。
 - ① マニュアル、行動指針の再確認及び周知を徹底し、関係機関との連携強化を図る。
 - ② 非常時に備え計画的に防災訓練を実施し意識の向上に努める。
 - (3) 手洗い、うがい、マスク着用等の感染症対策、職員の健康管理に重点的に取り組み、誰もが安心して生活できる環境を提供する。

ヘルパーステーション はまゆう

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 居宅介護支援事業所との連携を密にし、利用者ニーズを適切に把握する。
 - (2) 利用者の生活環境から状態把握及び課題分析を行い、利用者一人ひとりの援助目標を明確にし、適切なサービス提供に努める。
 - (3) 関係事業所間で利用者の情報共有、連携強化を図り、チームケアを実施する。

- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 職員個々の専門性を高めるための資格取得を推進する。
 - (2) 毎月の職員会において研修報告や勉強会を実施し、職員間で知識、技術の共有を図る。
 - (3) 職員個々に年間研修計画を立て、施設内外の研修に参加し職員の資質向上を図る。

- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 感染症予防対策の研修を行い、スタンダードプリコーションを徹底する。
 - (2) 訪問施設の防災マニュアルを職員に周知し、実際に避難訓練に参加することにより非常災害時の連携を強化する。
 - (3) 計画的に年間5日以上の有給休暇を取得するとともに、定期的に職員面談を行い働きやすい職場環境を構築し人材確保に繋げる。

ヘルパーステーション うみ風

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 管理者、サービス提供責任者は、運営状況を把握し、遅滞なくサービス調整が行えるよう関係事業所と連携を密に行う。
 - (2) 多職種連携のもと、利用者一人ひとりの援助目標を明確にし、適切なサービス提供に努める。
 - (3) 管理者は毎月の進捗状況を管理し、その運営状況を職員間で話し合い、統一した意識でサービス提供ができるよう努める。

- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 施設内外の研修に参加し、得た知識を共有することで事業所全体の介護力向上を目指す。
 - (2) 管理者は中堅職員が管理的役割を担えるよう、適宜必要な指導や教育を行う。
 - (3) 中堅職員は、積極的に階層別研修に参加し、他職員の指導、育成が行える能力を養う。

- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 訪問先の施設や地域の防災訓練に参加し非常災害時に備える。
 - (2) 非常災害時マニュアルに基づき、職員が災害時に迅速に行動できるよう周知徹底する。
 - (3) 全職員が計画的に年間 5 日以上有給休暇を取得する。

ヘルパーステーション はま風

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 居宅介護支援事業所との連携を密にし、利用者ニーズを適切に把握する。
 - (2) 利用者の生活環境から状態把握及び課題分析を行い、利用者一人ひとりの援助目標を明確にし、適切なサービス提供に努める。
 - (3) 関係事業所間で利用者の情報共有、連携強化を図り、チームケアを実施し、4大目標への取り組みを推進する。

- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 管理者、サービス提供責任者を育成し、事業所の体制強化を図る。
 - (2) 毎月の職員会において研修報告や勉強会を実施し、職員間で知識、技術の共有を図り実践に繋げる。
 - (3) 職員個々の目標に沿った年間研修計画を立て、施設内外の研修に参加し職員の資質向上を図るとともに、訪問介護員として専門性、実践力を身につける。

- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 感染症予防対策の研修を定期的に行い、スタンダードプリコーションを徹底し、感染症まん延防止に努める。
 - (2) 訪問施設の防災マニュアルを職員に周知し、実際に避難訓練に参加することにより非常災害時の連携を強化するとともに対応能力の向上を図る。
 - (3) 計画的に年間5日以上の有給休暇を取得するとともに、定期的に職員面談を行い働きやすい職場環境を構築し職員の定着を図る。

ケアプランセンター はまゆう

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 情報共有スペースを活用し多職種で迅速な情報の発信を行い、利用者の状態変化に応じたサービス調整を行う。
 - (2) 利用者個々の骨密度数値や転倒リスク、身体機能や機能訓練内容を把握し、多職種と転倒や事故の要因を分析し生活環境や支援を整備する。

- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 内部、外部研修の参加を継続し、個々のレベルに応じた研修への参加を促しスキルアップ向上に繋げる。
 - (2) 新規の独居高齢者や重度の要介護者に対して、複数で関わりスムーズなサービス調整を行えるようにする。
 - (3) 特定事業所として、定期的な勉強会や他居宅事業所との共同事例検討会を行い、知識、社会資源等の情報共有を行う。

- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 事業所の感染症、自然災害の BCM に参加し、様々な事態を想定し関係事業所との連携を図る。
 - (2) 有給休暇取得等の福利厚生の実施を図り、働きやすい環境づくりに努める。

グループホーム せんだんの里

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 多職種の専門的な意見を収集し、個々のケアプランの内容を充実させケアの統一、向上を図る。
 - (2) 生活機能向上連携や医療連携を活かし、直接指導や助言を受けることにより専門性の高いケアを提供する。
 - (3) 家族、医療関係者等との連携を密に取り健康管理を行い、終末期へ向けた対応等の充実を図る。

- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 勉強会や研修への参加、OJTにて職員のスキルアップを目指す。
 - (2) 全職員が年間2回以上の研修等に参加し、伝達講習を行うことで理解を深め職員全体のスキルアップを目指す。
 - (3) 介護実習の受け入れや新人教育等も、指導に当たる職員自身のスキルアップの機会となるように目的を持って取り組む。

- 3 BCP、BCMを軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 職員会においてBCP、BCMに取り組み、全職員が理解を深める。
 - (2) 地域住民や消防機関と連携し防災訓練等を実施し、地域の実情の把握、災害時のスムーズな対応に備える。
 - (3) 災害備品、備蓄食料の管理を行い、使用方法、調理方法等を日頃から確認し非常時に備える。

グループホーム きんもくせいの里

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 多職種と連携し個々の状態に合わせたケアの提供に努める。
 - ① 多職種の意見をケアプランに取り入れ統一したケアを実践する。
 - ② 定期的なカンファレンスを行い利用者の情報共有を図る。
 - (2) リスクマネジメントの強化を図り重大事故を防ぐ。
 - ① 多職種と連携し事故発生時の検証および分析を行い、事故対策を適切に実施、周知することで重大事故件数を前年度以下にする。
 - ② ヒヤリハット報告を活用し観察力を高め危険認識の向上を図る。
- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 計画的に研修や勉強会へ参加し人材育成に繋げる。
 - ① 経験年数や資格取得など、職員レベルに合わせた研修計画を立て実践する。
 - ② 介護福祉士、介護支援専門員、口腔ケア推進士等の資格取得に努める。
 - (2) 指導を受ける側、行う側双方が自分自身の質を高め合う。
 - ① 職員が指導を行う機会を設ける事で、自分自身を見つめ直す機会を持つ。
 - ② 職員全体で外国人材の育成に取り組めるよう、計画を立て職員間で周知、実践する。
- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 防災意識の向上を図り災害時の対応に備える。
 - ① 様々な状況の防災訓練を実施し対応力の向上を図る。
 - ② 非常災害時の福祉ゾーン関係事業所との連携体制、マニュアルや行動指針を周知しスムーズな連携に努める。
 - ③ 定期的に非常食等の備蓄品の確認を行い非常時に備える。
 - (2) 働きやすく活気ある職場づくりに務める。
 - ① 人員を有効に活用できるように業務の効率化を図る。
 - ② 有給休暇を年間6日以上取得できるように勤務調整をする。

グループホームゆうりこう

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 質の高いケアを提供するため多職種との連携体制を強化する。
 - (2) 蓄積、管理された記録データをカンファレンス等で分析し、状態に応じたケアプランを作成する。
 - (3) 法人内のグループウェアを活用して情報共有を図り、個々のニーズに合わせたケアを提供する。

- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 職員の経験値に合わせた人材育成の計画（目標、期間）を立てる。
 - (2) 目標達成に向け職員個々の状況を確認しながら助言、指導を行う。
 - (3) 積極的に研修に参加できるよう、勤務調整、資格取得に向けた支援や職場環境を整える。

- 3 BCP、BCM を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 近隣の地域資源を把握して協力体制を構築し、非常時の迅速な連携を図る。
 - (2) 非常災害、感染症まん延等の非常時に、滞りなく事業所運営を行っていくためのBCPを整える。
 - (3) 運営推進会議等を地域との意見交換の場として活用し、地域住民と防災管理の意識を共有し相互支援体制を構築していく。
 - (4) 地域、事業所における防災訓練、定期的な災害時の備蓄品管理を通して、非常時に関する知識、意識の向上を図る。

グループホーム ふなとの里

年度目標

- 1 他職種連携による質の高いサービスの提供に努める。
 - (1) 他職種連携による入居者本位としたサービス提供を目指す。
 - ① ガルーンを有効活用し専門職との連携を図る。
 - ② 専門職の助言をケアプランへ反映する。
 - (2) 専門性の高い認知症ケアを提供する。
 - ① 毎月の研修参加や自己学習への取り組みを行う。
 - ② 個別ケア推進のための視覚的マニュアルの充実を図る。
- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 介護福祉士及び介護支援専門員1名以上の合格を目標とする。
 - (2) ケアマネ受験者には年間計画を立て合格に向けて支援する。
 - (3) OJTにより職員やアルバイトの育成を図り質の向上に努める。
- 3 BCP、BCMを軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 自然災害に向けた取り組みの強化を図り、誰もが安心できる地域に欠かせない事業所運営を行う。
 - (2) 日常的な地域交流により信頼関係を構築するとともに、運営推進会議を通して地域ニーズの把握や情報発信を行う。
 - (3) 感染症蔓延時に円滑に対応できるよう、感染症マニュアルの周知及び業務の見直しを図る。
 - (4) 全常勤職員、年間6日間以上の有給休暇取得を目指す。

老人保健施設しお風

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 多職種によるアセスメントを行い、ご利用者の心身機能やリスクの把握に努める。得られた情報から、ご利用者のニーズに沿った計画作成と目標達成に向けた統一的なケアを行う。
 - ① 骨密度測定その他、転倒アセスメントシートや、各種評価（運動機能検査、口腔機能評価、皮膚状態チェック等）を行って、リスクの高いご利用者を把握する。これらの情報をもとに、重大事故予防に向けた運動機能向上トレーニングや環境整備、口腔ケアや保湿などのケアを統一的に行う。また、ヒヤリハット報告の推進に努めるほか、多職種によるラウンド活動を行ってリスクをいち早く察知し、先手を打った事故対策を講じる。
 - ② 各委員会等の定期会議、担当者会議、毎朝のカンファレンス等の場面で、ご利用者の情報を密に共有する。また、電子媒体（法人内グループウェア）の活用により、時宜にかなった情報の更新と共有を行う。
 - ③ 多職種による客観的な情報の収集と分析を行って、具体的かつ、個別的なケアプラン作成につなげる。また、定期的なケアプランの見直しを行い改善に努める。もって、ご利用者の QOL の向上や生活目標の達成に向け、全職員一丸となって取り組む。
- 2 職員の経験値に応じた計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 新入職員、異動職員、外国人職員を計画的に育成し、知識・技術の向上を図る。
 - ① 3ヶ月毎の指導計画を立案し、多職種による勉強会（ノーリフティングケア、介護技術、感染予防等）や技術指導を計画的に実施する。
 - ② 法人内外問わず研修に参加する。
 - ③ 職員は年2回以上の研修参加を目標とする。
 - (2) 資格取得を推進し、職員の意欲や専門性の向上を図る。
 - ① 介護福祉士、介護支援専門員のほか、認知症ケア専門士、認知症予防専門士、介護口腔ケア推進士などの資格取得を推進する。
 - ② 資格取得者は、それぞれの専門性を発揮して、ケアの質の向上を図るほか、職員教育にも積極的に取り組む。

- 3 業務継続計画（BCP）、業務継続マニュアル（BCM）を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
- (1) 感染症 BCP の運用に努めるとともに、感染症に対しての意識向上を図る。
- ① 全職員に感染症 BCP を周知し、感染時には迅速且つ的確な対応ができるよう取り組む。
 - ② 出退勤時の手洗い、うがい、マスク着用、自己管理等、基本的な感染対策を励行する。
 - ③ 自分や家族に感染症状がある場合や、または疑われる場合は管理者に報告し、適切な対応を行う。
- (2) 災害 BCP の運用に努め、ご利用者や職員の安全を確保する。
- ① 災害 BCP を策定し、実践的な防災訓練を定期的実施し、災害時に迅速且つ的確な対応ができるように取り組む。
 - ② 防災備品・機器の保管・設置場所、整備、取り扱い、操作を全職員が把握し、災害時の迅速な初動が行えるようにする。
 - ③ 法人内情報連絡ツールの活用により、緊急連絡訓練や呼集訓練を定期的に行って緊急時に備える。
 - ④ 感染状況を考慮しながら地域の防災訓練や行事に参加する。地域交流に加え、避難所としての機能を地域の方々に知っていただけるよう情報発信を行う。
- (3) ワークライフバランスを考慮した働きやすい職場環境の構築を目指す。
- ① 労働時間関係法令を遵守し、超勤時間の削減、及び年 5 日以上の有給休暇取得に努める。
 - ② 産前産後休暇、育児休暇取得の推奨など、男女が共に働きやすく、仕事と家庭の両立を推進する。もって、子育てしやすい職場環境づくりに積極的に取り組む。
 - ③ ストレスチェックシートを活用したメンタルヘルスなど、職員衛生管理に積極的に取り組む。

老人保健施設しお風 通所リハビリテーション

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 多職種による情報収集、分析、共有を行いケアの統一を図る。
 - ① 心身機能（運動機能・認知・栄養・口腔）の評価、およびデータ収集・分析を行って、根拠のあるプログラムを立案する。
 - ② 法人内グループウェアの活用や、朝礼、デイケア会、担当者会等で情報共有を行う。多職種で情報を分析・共有することで、ご利用者のニーズに沿った生活目標を明確にし、サービスの質の向上に努める。
 - ③ 生活場面における転倒・骨折等のリスクを把握し、多職種による予防策を講じる。安全にサービス提供できるよう取り組む。
 - (2) 有効なレクリエーションを実施する
 - ① ご利用者個々の心身機能を把握した上で、機能維持・改善に有効なレクリエーションを実施する。
 - ② インターネットや、他事業所での取り組み等を参考にレクリエーションの充実を図る。
 - ③ 定期的な満足度アンケートや聞き取り調査を行い、検討を重ねることで有効なレクリエーションの提供を目指す。
- 2 職員の経験等に応じた計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 研修へ積極的に参加し、職員全体の知識・技術の向上に努める。
 - ① 職員は、年に法人内研修2件、外部研修1件の研修受講を目標とする。
 - ② 職員は、新たな資格取得を目指す（認知症ケア・ケアマネ等）。
 - ③ 年2回勉強会を行う（認知症・接遇など）。
- 3 業務継続計画（BCP）、業務継続マニュアル（BCM）を軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 感染症BCPの運用に努めるとともに、感染症に対する意識向上を図る。
 - ① 全職員が感染症BCPを周知し、発症時には迅速且つ的確な対応ができるよう取り組む。
 - ② 出退勤時の手洗い、うがい、マスク着用、自己管理等、基本的な感染対策を励行する。
 - ③ 職員自身、家族に感染症状がある場合や、疑われる場合は管理者に報告

し、適切な対応を行う。

- (2) 災害BCPの運用に努め、ご利用者及び職員の安全を確保する。
 - ① 実践的な防災訓練を実施し、全職員の意識啓発を図るとともに、災害時に迅速且つ的確な対応ができるように取り組む。
 - ② 全職員が防災備品・機器の保管・設置場所、整備、取り扱い、操作を把握し、災害時に迅速な初動が行えるよう取り組む。
 - ③ 法人内情報連絡ツールの活用による迅速な連絡系統を構築し、緊急連絡訓練や呼集訓練を行って緊急時に備える。
 - ④ 感染状況を考慮しながら地域の防災訓練や行事に参加する。
- (3) ワークライフバランスを考慮した働きやすい職場環境の構築を目指す。
 - ① 労働時間関係法令を遵守し、超勤時間の削減、及び年5日以上の有給休暇取得に努める。
 - ② 産前産後休暇、育児休暇取得の推奨など、男女が共に働きやすく、仕事と家庭の両立を推進する。もって、子育てしやすい職場環境づくりに積極的に取り組む。

訪問看護ステーション あおぞら

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービスに努める。
 - (1) 各事業所の担当者会、調整会に参加するとともに、ガルーンや共有スペースも活用し情報共有を行い利用者のケアに当たる。
 - (2) 利用者の状態把握に努め早期対応に当たり重症化予防を図る。

- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 外部、内部研修や勉強会に参加し専門性を高める。
 - (2) 事業所内で年2回勉強会を行う。
 - (3) 資格取得に取り組み個々のスキルアップを図る。

- 3 BCP、BCMを軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 感染症に対する知識、技術の向上を図る。
 - ① 基本的な感染予防策を徹底し、正しいマスクの着用、手洗い、適宜換気が行えているか月1回確認する。
 - ② 医師、関係事業所との連絡体制を整え早期対応に努める。
 - (2) 非常災害、防災対策の意識を高める。
 - ① 緊急連絡網や備品の点検を年2回確認する。
 - ② はまゆうの里の防災訓練に年1回以上参加し、防災対策を把握し意識向上に努める。
 - (3) 有給休暇取得等により職場環境の向上を目指す。
 - ① 計画的に有給休暇を取得できるよう業務の改善、効率化に努める。
 - ② 休憩時間、休憩スペースを確保し意見交換が行えるように努める。

訪問看護ステーション キセキレイ

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 多職種との連携を図り、誤嚥性肺炎のゼロを目標に取り組む。
 - ① 口腔ケアの徹底と指導を実施する。
 - ② 食事中のむせ込み、微熱、喀痰の増量などの誤嚥の兆候があれば、現場から報告を受け、対策を講じる。
 - ③ 毎月、実際に施行した誤嚥性肺炎予防の取り組みについて、各職員から報告を受け、現状を把握し、予防に努める。
 - ④ 事業所内勉強会を実施する（1回/2か月）。

- 2 職員の経験等に応じ計画的な人材育成を推進する。
 - (1) 専門性を高めることで、多様な利用者ニーズに応えることができる。
 - ① 研修参加に意欲的に取り組み、個々のスキルアップを図る。
 - ② 取得した知識を1回/2か月、事業所内で担当制の勉強会を行う。

- 3 BCP、BCMを軸に地域との連携を図り、安全、安心な職場環境の構築を目指す。
 - (1) 非常事態発生時の体制強化に取り組む。
 - ① 緊急連絡網の周知を徹底する。
 - ② 訪問先の事業所の防災マニュアルを周知する。
 - ③ 災害用備品の点検を2回/年行う。

総合福祉ゾーン オークの里

- ・ 総合福祉ゾーンオークの里 ……P38
- ・ 障害者支援施設のぞみの家 ……P39
- ・ デイサービスセンター 丹心苑 ……P41
- ・ ケアハウス まごの手 ……P42
- ・ グループホーム なごみの里 ……P43
- ・ 特定相談支援事業所 のぞみ ……P44
- ・ 共同生活援助オレンジハウス ……P45
- ・ 維新工房きらり ……P46

総合福祉ゾーン オークの里

基本方針

総合福祉ゾーンオークの里は、安心・安全で健康に生活できるよう各専門職が連携し、4大目標の取り組みをとおして、利用者個々に応じた質の高いサービス提供に努め、地域の福祉ニーズに応えられる事業所を目指します。

また運営目標を明確にし、職員の経営に関する意識の向上を図り、経営基盤の安定に繋がります。

危機管理対策においては、地域や関係機関との連携を図り、各事業所のおかれている状況に応じた防災訓練を計画的に実施し、防災体制の強化に努めます。

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進、利用者個々に応じた質の高いサービス提供。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
- 3 地域や関係機関と連携し、計画的な防災訓練の実施。

障害者支援施設 のぞみの家

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進、利用者個々に応じた質の高いサービス提供。
 - (1) 利用者のニーズに沿った質の高い安定したサービスの提供を目指す。
 - ① 支援内容の統一を図り、障害特性に応じた、適切なケアを提供する。
 - ② 各専門職が専門性を生かし、他職種との連携を図り質の高いサービスの提供を目指す。
 - ③ 口腔ケア推進士を中心に年2回の勉強会を開催し、知識や技術を学び誤嚥性肺炎の予防につなげる。
 - ④ ノーリフティングケア委員会で具体的な計画や、マニュアルの見直しを行い、安全で統一したケアを提供する。
 - (2) プロフェッショナルな人材の育成と資質向上を目指す。
 - ① 施設内外の研修に参加し専門職の専門性を高め、良質なサービスの提供を目指す。
 - ② 個々の知識、技術の向上と指導能力の向上を図り、統一したケアの提供につなげる。
 - ③ 外国人介護職員への指導方法をマニュアル化し、統一した指導を行い育成を図る。
 - (3) リスクマネジメントの強化を図る。
 - ① 事故原因を究明し、速やかに対応策を講じ、事故の防止に向けて取り組む。
 - ② 福祉用具の適切な使用方法を周知し、環境要因に起因する事故を予防する。
 - ③ ひやりはつとを活用し危機意識を高め、利用者が安全に生活できる環境作りに努める。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 安定的な事業運営を目指す。
 - ① 各専門職が連携し、入所マネジメントの効率化を図り、稼働率の安定(入所 95%、短期入所 40%)に繋げる。
 - ② 関係機関との情報共有に努め、スムーズな入所調整につなげる。
 - (2) 職員の経営意識の向上を図る。
 - ① 運営目標の周知徹底を図り、目標に沿ったサービスの提供を目指す。
 - ② 収支状況の把握と共有に努め、経営意識の向上につなげていく。

- 3 地域や関係機関と連携し、計画的な防災訓練の実施。
- (1) 災害時に備え運営体制を整える。
- ① 災害マニュアルの適宜見直しを行い、年間5回の防災訓練を実施する。
 - ② 備蓄品の確認と管理を徹底する。
 - ③ 災害時の医療機器の安全な取り扱い方法の周知と、マニュアルの適宜見直しを行う。
 - ④ 地域で開催される防災訓練への参加や、福祉避難所としての受け入れ態勢を整える。

デイサービスセンター 丹心苑

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進、利用者個々に応じた質の高いサービス提供。
 - (1) 誤嚥性肺炎0を目標に口腔ケアの質を高める。
 - ① 介護口腔ケア推進士の資格取得を目指す。
 - ② 施設内外の研修へ参加し、知識・技術の向上に努める。
 - (2) 認知症予防を目的とした、脳の活性化に繋がる活動を実施する。
 - ① 脳トレや学習レク等を組み込んだ日中の活動プログラムを提供する。
 - ② 季節に応じた行事の開催等を通じ、心身両面からの効果的日常生活動作の維持向上を図り、生活の質につなげる。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 年間予算に対する月々の目標を達成していく。
 - ① 稼働率98%を目標とする。
 - ② 居宅事業所等と連携し、適切なサービスの提供を行う。
 - ③ 光熱費等の確認を行い、無駄な支出の抑制に努める。
- 3 地域や関係機関と連携し、計画的な防災訓練の実施。
 - (1) 総合防災訓練へ参加し、非常災害時の避難行動が的確に行えるようにする。
 - ① 常に最新のハザードマップの確認をする。
 - (2) 運営推進委員会の開催や地区清掃へ参加し、地域住民と交流することで地域の実情を把握していく。

ケアハウス まごの手

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進、利用者個々に応じた質の高いサービス提供。
 - (1) リスクマネジメントの向上、リスク管理に努める。
 - ① ヒヤリハットを1人1枚/日提出し、朝礼等で共有を図る。
 - ② それぞれの心身の状態にあった環境整備（居室環境、福祉用具の選定等）を行い、転倒等がなく快適に生活を送れるように支援する。
 - (2) 多職種との連携を強化し、チームケアを実践する。
 - ① 年1回以上 OHAT を実施し、適切な口腔ケアと必要に応じた治療により、誤嚥性肺炎の予防に努める。
 - ② 入居者の日々の状態変化、病状等を基に適切なサービスの提供を適時実施する。
 - (3) 職員個々の知識、技術の向上を図る。
 - ① 1人外部研修1回以上、内部研修に5回以上参加し、専門的な知識・技術の習得に努め、スキルアップを図る。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 安定した事業運営を行い、稼働率の安定を図る。
 - ① 年平均稼働率98%を目指す。
 - ② 月40件以上の広報活動を実施し、待機者の確保に努める。
 - ③ 他事業所と連携を図り、スムーズな入退居調整を行う。
 - ④ 収支の状況を把握し、職員間で共有する。
- 3 地域や関係機関と連携し、計画的な防災訓練の実施。
 - (1) 住み慣れた環境で安全に生活が送れるよう防災対策の強化を図る。
 - ① 非常時に備え、計画的に防災訓練を行い、防災意識の向上に努める。
 - ② 地域の自主防災組織や消防とも連携し、訓練を実施する。
 - ③ 最新のハザードマップの把握、訓練時の活用。

グループホームなごみの里

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進、利用者個々に応じた質の高いサービス提供。
 - (1) 業務の統一化を図り、質の高いケアの提供に努める
 - ① 認知症に関する研修等への参加、資格取得を目指し、職員のスキルアップを図る。
 - ② ケアチェック表を活用し、自立支援に向けた個別ケアの統一を図る。
 - (2) 個々のスキルアップと指導力の向上を図る。
 - ① 勉強会や研修等に参加し、実践力の向上を目指す。
 - ② リスクに対する意識を高め、リスクを予測した行動ができる職員を育成する。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 稼働率98%以上を目指す。
 - ① 効率的な広報活動を実施し、待機者の確保に努める。
 - ② スムーズな入退居調整ができるよう、関係機関と調整を図る。
 - ③ 入居者の状態観察を行い、健康状態の意地や体調不良の早期発見に努める。
 - (2) 収支状況を把握し経費削減に努める。
 - ① 節電・節水等を心掛け、適切な備品管理を行う。
- 3 地域や関係機関と連携し、計画的な防災訓練の実施。
 - (1) 防災への意識付けを強化する。
 - ① 防災関係マニュアルの周知徹底を行い、災害発生時に適切且つ迅速な行動ができるよう、訓練に取り組む。
 - ② 最新のハザードマップを把握し、事業所の立地条件を理解したうえで、効果的な防災訓練に取り組む。
 - (2) 地域と連携した防災訓練を実施する。
 - ① 地域住民と合同の防災訓練の実施や地域の自主防災訓練などへ参加し、災害時の支援体制の強化に努める。

特定相談支援事業所 のぞみ

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進、利用者個々に応じた質の高いサービス提供。
 - (1) 利用者や家族の意向に沿ったサービス計画書の作成に努める。
 - (2) 各事業所と定期的に情報共有し、変化に応じたサービス調整を行う。
 - (3) 書類整理・整頓や行政提出物など、円滑な業務遂行を行う。

- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 効率的な業務を意識し、経費削減に努める。
 - (2) 行政機関の会議や研修、地域での取り組みに積極的に参加する。
 - (3) 障害事業部内で連携し、相談支援専門員を育成する。

- 3 地域や関係機関と連携し、計画的な防災訓練の実施。
 - (1) 非常災害時に関係機関と連携し、サービスの調整及び必要な支援を行えるよう体制を整える。
 - (2) 利用者の避難所等を把握し、災害時の安否確認を行う。

共同生活援助 オレンジハウス

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進、利用者個々に応じた質の高いサービス提供。
 - (1) 生活習慣病や事故を予防する事で、自立した生活を維持する。
 - ① 毎月、個人目標や嗜好に対応した調理指導や生活支援を実施する。
 - ② 有酸素運動を計画し、利用者の生活能力や健康意識の向上に努める。
 - ③ ヒヤリ・ハット報告を上げ、事故予防につなげる。
 - ④ 居室点検の充実化を図り、安全で清潔感のある住環境を維持する
 - (2) 職員の資質向上を図り、利用者の視点に立った支援に努める。
 - ① 毎月ケース検討会議を行い、意見交換や振り返りを行う。
 - ② 専門的知識習得の為、全職員が研修会に年3回以上参加する。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 目標稼働率を90%とし、安定した事業運営を行う。
 - ① 行政機関や利用者の日中活動先と常に連携を取り、情報共有や調整をしながら、ホームと就労の安定した利用に繋げる。
 - ② 業務の進捗状況の確認と見直しを行い、効率的な業務を心掛け、職員間で意識統一化を図る。
 - (2) 事業所の運営状況を把握し、経費削減に取り組む。
 - ① 物品・食材・水光熱などの積極的なコスト管理に努める。
 - ② 事業費収入や支出状況の把握と共有を行う。
- 3 地域や関係機関と連携し、計画的な防災訓練の実施。
 - (1) 年間計画に基づいた防災訓練を実施し、防災意識を高める。
 - ① 地域の訓練等に参加し、地域住民と交流を深め、ハザードマップを活用しながら、付近の避難場所の確認を行う。
 - ② 地域の社会資源を活用しながら、最新の情報を得る。

維新工房きらり

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進、利用者個々に応じた質の高いサービス提供。
 - (1) 利用者の体力の維持・増進、事故防止を目的とした業務に取り組む。
 - ① 職員が安全衛生管理の知識を持てるよう、定期的に職員会で議題にあげ、事故防止につなげる。
 - ② 支援員が気付きの力を身につけることを目的とし、月10件を目標にヒヤリ・ハット報告書をあげ、共有することで事故防止を図る。
 - ③ 腰痛予防を兼ねたラジオ体操を始業時に行う。
 - (2) 職員のスキルアップと、利用者特性に適応した支援方法の習得。
 - ① 職員が専門知識を高め、効果的な支援方法が提供できるようオンライン研修等も活用し、研修に参加する。
 - ② サービス管理責任者の有資格者を育成する。
- 2 運営目標の明確化と職員の経営意識の向上。
 - (1) 利用率90%以上を維持する。
 - ① 作業場などハード面での整備を進め、利用者が作業しやすく安全な環境作りを行う。
 - ② 利用者が相談できる体制を整え、心身の状態や意向を把握し、適切な対応ができる。
 - ③ 毎月、運営会議において、情報交換・情報共有を行い、適切な運営につなげる。
- 3 地域や関係機関と連携し、計画的な防災訓練の実施。
 - (1) ネットワーク等を活用し、ハザードマップや最新情報を把握する。
 - ① 視覚的に理解しやすいマニュアルを掲示する。
 - ② 地域住民との防災訓練に積極的に参加する。

総合福祉ゾーン キセキレイの里

- ・総合福祉ゾーンキセキレイの里 ……P48
- ・養護老人ホーム清香園 ……P49
- ・デイサービスセンターアザレア ……P50
- ・デイサービスセンターいおき ……P51
- ・ケアハウスせいらん ……P52
- ・グループホームあい ……P53
- ・グループホームびわの里 ……P54
- ・グループホームくすのきの里 ……P55

総合福祉ゾーン キセキレイの里

基本方針

総合福祉ゾーンキセキレイの里は、福祉施設の機能を活かし、支援を必要とする人々が住み慣れた地域でその人らしく安心して生活できるよう、質の高いサービス提供と地域に開かれた事業所づくりに重点を置き、安定した事業運営を目指します。また、感染症蔓延や非常災害に備えて危機管理体制の整備を継続します。

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービス提供に努める。
- 2 運営目標の明確化と人材育成・働きやすい職場環境づくりにより経営基盤の安定に繋げる。
- 3 地域に開かれた事業所を目指して、地域との連携と危機管理体制を強化する。
- 4 関係機関と連携してグループホームびわの里の移転を推進する。

養護老人ホーム 清香園

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービス提供に努める。
 - (1) リスクマネジメント力を強化し、事故防止に繋げる。
 - ① 多職種でヒヤリ・ハットや事故内容の分析を行い、根拠ある事故防止策を講じる。
 - (2) 感染症対策を推進し、感染症拡大を防止する。
 - ① 空気調和に加え、標準予防策を職員、関係者へ周知徹底する事で利用者の体調管理に努める。
 - (3) 口腔ケアの推進に努め、誤嚥性肺炎ゼロを目指す。
 - ① 歯科健診と口腔ケア物品の管理を行い、適切な口腔ケアを実施する。
- 2 運営目標の明確化と人材育成・働きやすい職場環境づくりにより経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 地域及び行政との連携を強化し、養護老人ホームの役割を果たす。
 - ① 地域・市町村・他施設への定期的な連絡・訪問にて、ニーズの収集と情報を発信・交換・共有し、稼働率の維持向上を図る。
 - (2) 外国人介護職員の技能向上を図る。
 - ① マニュアルに沿った教育を行い、基本的な介護技術を習得する。
 - (3) 計画的な人材育成を行い、職員個々のスキルアップを目指す。
 - ① 年間研修計画に基づき、施設内外の研修に参加する。
 - ② 自己研鑽に励み、口腔ケア推進士や介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を目指す。
 - (4) ワークライフバランスを意識した働きやすい職場を目指す。
 - ① 外国人介護職員の日本での生活、日本語能力の向上を支援する。
 - ② 年5日以上の有給取得でストレスを緩和し、メンタルヘルスを推進する。
- 3 地域に開かれた事業所を目指して、地域との連携と危機管理体制を強化する。
 - (1) 有事に備え、日頃より事業継続を念頭に置き、防災意識の向上を図る。
 - ① 福祉避難所の開設訓練等の地域の防災訓練に参加し、地域との連携や福祉避難所の役割を確認する。
 - ② 業務継続計画（BCP）に基づく防災研修を計画的に実施する。

デイサービスセンター アザレア

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 事故防止に取り組む。
 - ① ヒヤリ・ハットの周知と事故報告書を活用し重大事故防止に繋げる。
 - ② 利用者の日々の状態観察を行い、変化に気づく目を養う。
 - ③ 多職種と職員間の情報共有によりリスクの把握と統一したケアの実施に繋げる。
 - (2) 感染症対策を実施し、予防、蔓延防止に努める。
 - ① 感染症に関する情報の周知、不調の早期発見に努め、利用者・職員共に体調管理を行う。
 - (3) 口腔ケアと摂食に関する知識を習得し、誤嚥性肺炎を予防する。
 - ① 定期的に口腔内観察、口腔ケア方法の確認、口腔ケア用品を管理する。
 - ② 専門職と連携して飲食時の姿勢、咀嚼・嚥下機能の確認を行う。
- 2 運営目標の明確化と人材育成・働きやすい職場環境づくりにより経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 安定した事業運営に取り組む。
 - ① 利用者のニーズを把握し、個別性のあるサービスを提供することで、目標稼働率96%以上を目指す。
 - ② 経費節減に努める。
 - (2) 働きやすい職場環境を作る。
 - ① 定期的に面談を行い職員の思いを聞き、職場環境を整備する。
 - (3) 職員のスキルアップに努める。
 - ① 各種資格取得及び計画的な研修参加と伝達講習で知識・技術の向上を図る。
- 3 地域に開かれた事業所を目指して、地域との連携と危機管理体制を強化する。
 - (1) 地域と連携を図り、防災対策に取り組む。
 - ① 地域行事への参加、市役所での作品展示の機会を通じて、利用者の状態やサービス内容等を地域と情報交換を行う。
 - ② 非常時に備え、地域との防災訓練に参加し事業所の役割を理解する。

認知症デイサービスセンターいおき

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービス提供に努める。
 - (1) リスクマネジメント力の向上に努め事故を防ぐ。
 - ① ヒヤリ・ハットメモを1日1枚以上提出し、週1回共有を図る。
 - ② 事故防止の研修に参加し、知識や技術の向上に努める。
 - (2) 誤嚥性肺炎を予防する為に口腔ケアの質を高める。
 - ① 口腔ケア推進士の資格取得に努める。
 - ② ユニット毎に日々担当を決め、利用者個々に応じた口腔ケアを実施する。
 - (3) 認知症ケアの専門性を高める。
 - ① 職員の50%はZOOM等を活用して外部研修に参加し、100%は内部研修に参加することで専門性を高めた職員を増やす。
- 2 運営目標の明確化と人材育成・働きやすい職場環境づくりにより経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 安定した収入と経費削減に努める。
 - ① 居宅介護支援事業所等と連携し、平均稼働率97.5%を目指す。
 - ② 光熱費等を把握することでコストに対する意識を持つ。
 - (2) 働きやすい職場環境の整備を行う。
 - ① 適時職員面談等を行い、互いに対する理解を深め、協力・助け合いの意識を持つ。
 - ② 計画的に有給休暇を取得する。
- 3 地域に開かれた事業所を目指して、地域との連携と危機管理体制を強化する。
 - (1) 行政及び地域との連携体制の確立に努め、非常災害対策の取り組みを強化する。
 - ① 地域の防災訓練へ参加し、地域と連携を図る。
 - ② 非常災害時にスムーズに対応できるよう、ハザードマップや非常災害時対応マニュアルを周知する。
 - ③ 運営推進会議を活用し、地域の実情を把握する。

ケアハウス せいらん

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービス提供に努める。
 - (1) リスクマネジメント体制の充実を図り、重大事故防止に努める。
 - ① 関係事業所と情報共有を図り、利用者の健康管理を行う。
 - ② 適時適切なサービスを提供できるよう多職種と連携を図る。
 - (2) 感染症対策を推進する。
 - ① 職員全員が健康管理に努め、感染症対策を徹底することで、施設内への持ち込みを防ぐ。
 - ア 3ヶ月毎に感染症に関する勉強会を事業所内で実施する。
 - イ 職員一人ひとりが自身の健康管理に努める。
- 2 運営目標の明確化と人材育成・働きやすい職場環境づくりにより経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 広報活動を推進する。
 - ① 医療、行政機関、居宅介護支援事業所等を中心に月75件以上の広報活動を継続する。
 - ア 常時待機者を2名以上確保し、スムーズな入退居に繋げる。
 - (2) 働きやすい職場環境作りと職員個々のスキルアップに努める。
 - ① 法人内外の研修に計画的に参加し、専門的な知識・技術の向上に努める。
 - ア 介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を目指し、教育部主催の勉強会に参加する。
 - イ 全職員が内外研修に合わせて年3回以上参加する。
 - ② 年5日以上の有給休暇を計画的に取得する。
- 3 地域に開かれた事業所を目指して、地域との連携と危機管理体制を強化する。
 - (1) 事業所の立地条件を踏まえて災害等を想定した防災訓練を実施する。
 - (2) 広報活動を通じて地域の高齢者の情報やニーズの把握に努める。

グループホーム あい

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 多職種と連携し個々の利用者に合ったサービスを提供する。
 - ① 蓄積されたデータ（骨密度、事故報告）を活用し、事故予防に努める。
 - ② 理学療法士、栄養士等と連携した取り組みをケアプランに反映し、専門性の高いケアを提供する。
 - (2) 感染防止のための標準予防策を徹底する。
 - ① 感染症予防教育を定期的実施(年2回以上)する。

- 2 運営目標の明確化と人材育成・働きやすい職場環境づくりにより経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 目標稼働率 98%以上を維持し、安定した運営を行う。
 - ① 常時4名以上の待機者確保に努める。
 - ② 利用者の心身の状態を把握し、健康維持に努める。
 - (2) 研修参加や資格取得を推進し、専門性の高いケアを追求する。
 - ① 介護支援専門員、介護福祉士、口腔ケア推進士等の資格取得を推進する。
 - (3) 外国人介護職員の生活定着を支援する。
 - ① 積極的に関わる機会を持ち、コミュニケーション力の向上に繋げる。
 - ② OJT教育と定期面談を実施し、介護技術習得の進捗状況を評価する。

- 3 地域に開かれた事業所を目指して、地域との連携と危機管理体制を強化する。
 - (1) 事業所の立地条件を踏まえて、災害を想定した訓練等を年3回以上実施し、地域の防災拠点として防災力の強化を図る。
 - (2) 運営推進会議や広報活動を通じて地域及び行政との連携体制の確立を図り、地域福祉に関する情報の共有、事業所に対するニーズを収集する。

グループホーム くすのきの里

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 多職種と連携してアセスメントを行い、利用者個々に応じたケアを見極め実施する。
 - ① 多職種で定期的にカンファレンスを実施し、様々な視点からリスクマネジメントを行い、情報を共有することで重大事故を防止する。
 - ② 口腔ケア推進士を取得し、歯科検診・歯科医指導のもと適切な口腔ケアを実践し、誤嚥性肺炎の防止に努める。
 - (2) 認知症ケアについて、職員個々のスキルアップを図る。
 - ① 勉強会を毎月実施し、認知症の理解を深め専門的なケアを実践する。
- 2 運営目標の明確化と人材育成・働きやすい職場環境づくりにより経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 毎月、稼働率98%以上を維持する。
 - ① 入居前面接等を順次行い、スムーズな入居調整を行う。
 - ② 関係機関と連携し、利用者の体調管理に努める。
 - (2) 外国人介護職員のコミュニケーション力及び介護技術の習得を図る。
 - ① OJT教育と定期面談を実施し、進捗状況を評価する。
 - (3) 働きやすい職場環境を作り、職員の定着を目指す。
 - ① 個別面談の機会を設け、職員個々の課題解決に努める。
 - ② 労働関係法令を遵守し有給休暇取得等の労務管理を行う。
- 3 地域に開かれた事業所を目指して、地域との連携と危機管理体制を強化する。
 - (1) 地域社会との繋がりを重視した取り組みを行う。
 - ① 地域住民参加型の総合避難訓練実施や地域の清掃活動等へ積極的に参加し、協力し合える関係性の構築を図る。
 - ② 地域の事業所に対する理解が深まるよう、運営推進会議を活用して防災等に関する事業所の現状やリスクを発信する。
 - ③ 計画的に広報活動を実施し、地域のニーズを把握する。
 - (2) 自然災害に向けた取り組みの強化を図る。
 - ① ハザードマップに基づき、実践的な防災訓練を実施する。

グループホーム びわの里

年度目標

- 1 4大目標の取り組みを推進し、質の高いサービス提供に努める。
 - (1) 職員間で利用者個々の状態を認識・検討を行い、多職種から助言を受けサービスの質の向上に努める。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書を職員間で共有し、リスク回避することで事故を最小限に抑え、重大事故防止に努める。
 - ② 口腔ケア推進士を中心に、口腔ケアの知識を深め、利用者個々の口腔ケアを手助け、改善して行く事で誤嚥性肺炎を防止していく。
 - ③ 認知症の勉強会を実施し、認知症ケアの知識を深める。
 - ④ ノーリフティングケアを推進する事で、利用者の安全確保・職員の腰痛防止に繋げる。

- 2 運営目標の明確化と人材育成・働きやすい職場環境づくりにより経営基盤の安定に繋げる。
 - (1) 年間を通じて在籍率 99%以上を目指す。
 - ① 医療機関・訪問看護との連携により、利用者の体調管理を徹底する。
 - ② 個別ケアを充実させ、重度化に速やかに対応出来る体制を整える。
 - ③ 広報活動を継続し、待機者を確保する。
 - (2) 職場環境を整え、人材育成を行う。
 - ① 個別指導に取り組み、何でも相談できる体制を整える。
 - ② 各種資格取得を推進し、次期リーダーの育成と職員の資質向上を図る。
 - ③ 計画的な有給取得を実行し、働きやすい環境を作る。

- 3 地域に開かれた事業所を目指して、地域との連携と危機管理体制を強化する。
 - (1) 非常災害時に備え、地域との連携強化を図る。
 - ① 地域の防災訓練に参加すると共に、事業所の防災訓練への地域住民の参加を促し地域との交流を深める。
 - ② 非常災害時対応マニュアルを定期的に確認し、防災意識を高める。
 - ③ 備蓄品の点検・更新を行い、必要備品を整備する。

- 4 関係機関と連携してグループホームびわの里の移転を推進する。
 - (1) 利用者に負担の少ない移転となるよう、関係機関と調整を図る。

総合福祉ゾーン

もとちかの里

- ・総合福祉ゾーンもとちかの里 ……P58
- ・ユニット型特別養護老人ホーム
もとちか ……P59
- ・デイサービスセンターかがやき ……P60
- ・ケアプランセンターもとちか ……P61
- ・グループホーム ひのきの里 ……P62
- ・デイサービスセンター ひのきの里 ……P63
- ・グループホーム やまざくらの里 ……P64
- ・グループホーム あさぎり四万十の里……P65
- ・グループホーム かづらしま ……P66
- ・グループホームななつかたばみ ……P67
- ・グループホームゆうき ……P68
- ・有料老人ホームあさくらの里 ……P69
- ・有料老人ホームながはまの里 ……P70
- ・有料老人ホームゆりぐるまの里 ……P71

- ・デイサービスセンターすみれ ……P72
- ・デイサービスセンターさくら ……P73

総合福祉ゾーンもとかの里

基本方針

総合福祉ゾーンもとかの里は、地域福祉の拠点として地域に根差した適正かつ健全な事業運営に取り組みます。また、多様なニーズを持つ利用者が安心安全に暮らし続けることができる高品質なサービスの実現を目指していきます。そのために、職員自らが考え行動することができることを第一の目標に定めて努めていきます。

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
- 2 安定した事業運営のために事業目標を明確に定めるとともに、進捗状況を把握し、徹底した目標管理をする。
- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。

ユニット型特別養護老人ホーム もとちか

年度目標

1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。

(1) 全職員のスキルアップに努め、専門性を向上させる。

- ① 介護福祉士、介護支援専門員、口腔ケア推進士資格の取得を目指す。
- ② 実務経験、資格等を考慮し、個々の目標に応じた研修へ参加する。
- ③ ノーリフティングケアに関するマニュアルを作成し定着を図る。
- ④ 外国人人材の介護力向上を目指し、実践を通じて介護方法を指導する。

(2) 働きやすい職場環境を意識した事業所にする。

- ① 全職員が年間5日以上の有給を取得するとともに、3日以上の連休取得に努める。
- ② 費用対効果を意識した業務改善に取り組む。

2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。

(1) 専門知識を活かした質の高いサービスの提供に努める。

- ① 適切な病状管理を行い、異常の早期発見に努め、重症化を予防する。
- ② 福祉用具や生活環境の見直しを多職種協同で実施し、重大事故を防ぐ。

(2) 施設運営の安定化を図るため、収入安定、経費節減に努める。

- ① 待機者管理を徹底し、迅速な入退所調整に努め、稼働率を維持する。
(広報活動件数80件以上、入所稼働率98%、短期入所稼働率50%)
- ② 前年度の介護用品、水光熱費等を分析、比較し、節減に取り組む。

3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。

(1) 行政機関や地域と連携し、非常事態に対応する体制の構築に努める。

- ① 福祉避難所としての役割を担えるよう行政機関や地域と協同で訓練を実施し、施設が果たすべき役割を職員に周知する。
- ② 実践的な避難訓練や研修を計画し実施することで防災力の向上を図る。
- ③ 災害備蓄食材、衛生管理用具の定期点検を行い、災害に備えた万全の体制を維持する。
- ④ 事業継続計画（BCP）の検証をし、適宜、見直しをする。

認知症デイサービスセンター かがやき

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員が自ら考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 4大目標の具体的な取り組みを実施する。
 - ① 適切な福祉用具の導入
 - ② 技術、知識の向上（研修参加）
 - ③ 多角的な視点からヒヤリハット報告書を作成し、気付きを持つ。
 - (2) 品質向上の要となる中堅職員の教育に努める。
 - ① 専門的な知識や技術の習得、資格取得
 - ② 業務において役割をつけることで、職員個々の得意分野を伸ばす。
 - ③ 根拠に基づいたプラン作成を行う為のアセスメント力の強化

- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 職員が事業所の収益に関心を持つような取り組みを行う。
 - ① 採算一覧表を職員会で共有して意見を出し合う。
 - (2) 安定した収入と経費節減に取り組む。
 - ① 日々の空き枠と稼働率への意識の定着
 - ② 水光熱費、消耗品や必要物品のコスト管理を行う。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 地域と連携がとれる体制づくりに取り組む。
 - ① 様々な自然災害に備え、定期的に避難訓練を行う。
 - ② 地域の避難訓練や行事等へ参加する。
 - (2) 利用者が地域交流できる場の確保に努める。
 - ① 地域交流を目的としたボランティアの受け入れ

ケアプランセンターもとか

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自ら考え行動できるような人材育成に取り組む。
 - (1) 4大目標の実現へ向けた質の高い安定したサービス提供を実現する。
 - ① アセスメントを通し利用者個々の状態に合わせた環境を整備する。
 - ② 関係事業所との連携、情報共有を図り質の高いプランニングに努める。
 - (2) 品質向上の要となる中核職員の育成を図る
 - ① 毎月開催される勉強会や各種委員会等を通し、職員の資質向上を図る。
 - ② 職員に事業運営上の役割を分担することにより能力向上を図る。
 - (3) 働きがいのある職場づくりを行う。
 - ① 有給取得等の福利厚生の充実を図り、職場環境の充実を図る。

- 2 安定した事業運営のために事業目標を明確に定めるとともに、進捗状況を把握し、徹底した目標管理をする
 - (1) 事業所収益の共有を図る
 - ① 職員会にて事業所の収支状況を共有し、経営意識を高める。
 - ② 全体のサービス利用実績状況を把握し、事業所の運営状況を理解する。
 - (2) 安定した収入と経費削減を図る
 - ① 利用者の健康状態を把握し、過不足のないサービス提供に繋げる。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 地域と連携がとれる体制づくりに取り組む。
 - ① 地域と連携した非常災害訓練等に参加し、BCPの見直しをする。
 - ② 地域行事、清掃活動等へ参加し地域交流を深める。
 - ③ 介護、社会福祉に関する啓蒙等の発信活動へ積極的に参加する。

グループホーム ひのきの里

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 4大目標の達成に向け具体的な取り組みを実践する。
 - ① 入居者の状態に合わせ必要な福祉用具を選定する。
 - ② ゆとりある業務が遂行できるように業務の見直しを繰り返し行う。
 - ③ 事故、感染症、身体拘束、虐待について全職員が研修に参加できる体制を整える。
 - (2) 高品質のサービスの要となる中堅職員の教育に取り組む。
 - ① チームリーダー格の職員の育成に取り組む。
 - ② 総合職員を中心に外部研修（Web研修含む）に参加できるよう勤務調整を行う。
 - (3) 職員の働きがいのある職場づくりを行う。
 - ① 有給休暇を年間5日以上取得できるように勤務調整をする。
- 2 安定した事業運営のために事業目標を明確に定めるとともに、進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 職員が事業所の収益に関心を持つ取り組みを行う。
 - ① 水光熱費の推移を事業所内に貼り出し、無駄のない使用に努める。
 - (2) 安定した収入と経費削減に努める。
 - ① 年間在籍率98%を維持する。
 - ② 入居者の身体状況を把握し、必要に応じて介護度の見直しを行う。
- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 地域と連携がとれる体制づくりに取り組む。
 - ① 年間3回以上の避難訓練を実施する。
 - ② 必要に応じて災害時のマニュアルの見直しを行う。
 - ③ 備蓄食料や物品の管理を行い、孤立した際でも事業運営ができる体制作りを推進する。

デイサービスセンター ひのきの里

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員が自ら考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 認知症対応型事業所としての役割を意識し、業務に従事する。
 - ① 認知症高齢者の特性を理解し、サービスを提供する。
 - ② 法人内外の研修に参加し、専門性の向上を図る。
 - ③ ヒヤリハット報告書を活用し、重大事故防止に繋げる。
 - (2) 発言しやすい関係性を作る。
 - ① 朝礼や職員会で職員が発言できる環境を作り、モチベーションアップに努める。
 - ② 担当業務を明確にする。

- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 稼働率70%以上を目指す。
 - ① 広報活動にて中山間地域の実情を把握し、新規利用者の確保に努める。
 - ② 利用者の状態把握を行い、体調異常の早期発見に努める。
 - (2) 安定した収入と経費節減
 - ① 事業進捗状況による運営状況を把握する。
 - ② 消耗品等の在庫状況を管理し、経費削減する。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 防災計画に基づいた訓練の実施と職員の非常災害時の意識向上に努める。
 - ① 隣接する事業所、地域住民、家族との連携を図り、防災訓練を実施する。
 - ② 家族等への連絡体制を整える。
 - ③ 送迎ルートの危険個所の再確認を行う。

グループホーム やまざくらの里

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 4大目標の具体的な取り組みを明確にし、実践する。
 - ① 法人内や外部研修参加に努め、ノーリフティングケアの浸透を図る。
 - ② 認知症介護実践者研修へ1名以上職員の参加ができるよう努める。
 - (2) 品質向上の要となる中堅職員の教育に努める。
 - ① 職員個々に担当の業務を振り分け、1年間を通して実施することにより業務に対する責任感を養う。
 - ② 質の高いサービス提供により、安全・安心なサービスを追求する。
- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 職員が事業所の収益に関心を持つように取り組む。
 - ① 年間在籍率98%以上を目標に早期の受診や空室を無くすよう入退所調整をスムーズに行い、事業所運営の安定化を図る。
 - ② 適切な空調管理や備品在庫管理により無駄をなくし経費削減を行う。
- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検討する。
 - (1) 地域と連携がとれる体制づくりに取り組む。
 - ① 地域の防災訓練に年間1回以上参加し、自主訓練に地域住民を招待することで事業所及び認知症高齢者の現況の共有を行う。
 - ② 生命の安全を確保する事を最優先課題とし予防管理、災害時の教育や訓練等を計画的に実施する。
 - ③ 普通救急救命講習の実施を行う。

グループホーム あさぎり四万十の里

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 4大目標の具体的な取り組みを明確にし、実践する。
 - ① 福祉用具の購入や業務見直し、マニュアル作成・見直しを行う。
 - ② 事業所内・外のweb研修・勉強会に参加し、伝達講習する事で職員全体で共有し専門性を向上させる。
 - (2) 品質向上の要となる中堅職員を計画的に育成する。
 - ① 実践者研修、管理者研修、リーダー研修への参加を促す。
 - ② 事業所内勉強会の準備・講師の実施を促す。
 - (3) 職員の働きがいのある職場づくりに取り組む。
 - ① 職員会で職員の意見を聞く機会を増やし、それを検討する事で業務に反映させる。
 - ② 働きやすい職場を構築する。
 - ③ KY活動を行い、安全に仕事の出来る環境作りに務める。
 - ④ 計画的に有給休暇取得を行う。(対象者1人に年5日以上)
- 2 安定した事業運営のために事業目標を明確に定めるとともに、進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 安定した収入と経費節減に取り組む。
 - ① 入居調整をスムーズに行い、空床を作らない。(在籍率98%以上)
 - ② 職員一人ひとりが節電・節水・消耗品管理等を心掛け、無駄をなくす。
- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 地域と連携がとれる体制づくりに取り組む。
 - ① 関係機関との連携を密に取り、協力関係を築く。
 - ② 避難訓練(自主訓練を含む)を年間5回以上行い、関係機関との連携し、協力関係を築く
 - ③ 地域の清掃活動に参加する。
 - (2) 利用者が地域交流できる機会と場を確保する。
 - ① 地域行事への参加や故郷巡り(ドライブ)などを計画的に実施する。

グループホーム かづらしま

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 経験年数や能力に応じたスキルアップを目指す。
 - ① 内部・外部研修や個々のスキルに合わせた資格取得への声掛け促しを行う。
 - ② 研修や資格取得がしやすいような勤務調整や職場環境を作る。
 - (2) 個性を活かした職員の育成に努める。
 - ① 個性を活かした業務を任せ、責任感の向上に努める。
 - ② 研修で取得した知識を職員会等で伝達講習し、統一したケアに繋げていく。
 - (3) 職員がやる気のでる職場を目指す。
 - ① 誕生日月には必ず有休を取得し、年間6日以上取得する。
- 2 安定した事業運営のために事業目標を明確に定めるとともに、進捗状況を把握し、徹底した目標管理をする。
 - (1) 安定した在籍率の確保に努める。
 - ① 少しの変化にも気づき、異常時は迅速な対応が出来るように利用者の健康状態の把握と観察に努める。
 - ② 病院や居宅介護支援事業所等の関係機関と連絡を密にし、退居後のベッドコントロールを管理し、稼働率98%以上を維持する。
- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 災害発生時に迅速な対応が行えるよう、全職員に災害への意識付けを強化していく。
 - ① 備蓄品や物品の定期的な管理を行う。
 - ② 定期的な防災訓練及び設備点検に努め、災害時の体制を強化する。
 - ③ 災害時における避難場所の把握と避難時の課題、その対策について話し合いの場を設け、共有できるようにする。

グループホーム ななつかたばみ

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 業務の統一化を図り、質の高いケアの提供に努める。
 - ① 認知症に関する研修や行事に参加し、職員のスキルアップを図る。
 - ② リーダー職員の人材育成に取り組み、技術・資格習得に向けた体制を構築する。
 - (2) 個々のスキルアップと、指導能力の向上を図る。
 - ① リスクに対する意識を高め、リスクを予測した動きができる職員を育成する。
 - ② 勉強会や研修に積極的に参加し、実践力の向上を目指す。
 - (3) 職員が働きがいを感じる職場づくりに取り組む。
 - ① 全職員が年間5日間以上の有休を取得する。
 - ② 管理者及び職員同士が、積極的にコミュニケーションを図れる雰囲気と場を作り、職員の定着に努める。
- 2 安定した事業運営のために事業目標を明確に定めるとともに、進捗状況を把握し、徹底した目標管理をする。
 - (1) 安定した在籍率の確保に努める。
 - ① 入居者の心身状態を把握し、異常の早期発見に努め、重症化を防ぐ。
 - ② 運営推進会議などを活用し、関係機関等との連携体制を密に取り、稼働率98%以上を維持する。
- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 非常災害発生時における適切且つ迅速な対応が行えるよう、全職員に対する防災への意識付けを強化する。
 - ① 近隣事業所と連携し、災害時に迅速に避難できるような実践的な防災避難訓練を行う。
 - ② 防災関係マニュアルの見直しと職員に周知徹底する。

グループホーム ゆうき

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員が自ら考え行動することができるように人材育成に取り組む。
 - (1) 品質向上の要となる中堅職員を計画的に教育する。
 - ① リーダー（管理者）を育てる教育を行う。
 - ② 職員に担当業務分けを行い、主担当としての責務を持たせる。
 - (2) 職員の働きがいのある職場づくりに取り組む。
 - ① 有給休暇を年間5日以上取得出来るように努める。
 - ② 人員を確保する事で余裕のある介護を目指す。

- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 安定した収入と経費削減に取り組む。
 - ① 待機者を常に10件以上確保し、在籍率98%以上を目指す。
 - ② 経費の節減方法を皆で考え実施する。
 - (2) 進捗状況を把握し、目標管理を行う。
 - ① 毎月進捗状況を確認する事で、目標の到達度を確認する。
 - ② 到達していない部分の強化を図る。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 地域と連携が図れる体制づくりに取り組む。
 - ① 非常災害時の協力体制を構築する。
 - ② 事業所を非常災害時の避難場所として活用してもらう。
 - (2) 計画的な避難訓練の実施を行う。
 - ① 年間3回以上（風水害避難訓練を含む）の避難訓練の実施を行う。
 - ② 訓練結果を下に問題点を把握し、改善点を見出す。

有料老人ホーム あさくらの里

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) リスクマネジメント強化を図り、的確に必要な対策を講じる。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書をもとに危険予測を行い、重大事故を未然に防ぐ。
 - ② 入居者の状態に合わせた福祉用具や生活環境の見直しを行う。
 - (2) 入居者のニーズに的確に応えられる職員教育に努める。
 - ① 事故対策や感染症対策などの研修を職員全員が内部研修を年2回以上、外部研修を年1回以上参加する。
 - ② コミュニケーション能力を高め、入居者の要求を細やかに把握し適切なサービスの提供に繋げる。

- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 質の高い広報活動を広範囲に展開し、成果の出る活動を目指す。
 - ① 医療機関や居宅介護支援事業所など関係機関の特性を掴み、情報収集をする。
 - ② 新規の入居者を開拓するため、関係機関を積極的に訪問し関係構築に努める。
 - ③ 月75件以上、待機者を常に3名以上確保する。
 - (2) 入居者が安心・安全な生活が継続できるように取り組む。
 - ① 入居者の体調管理を徹底し、嘱託医及び専門職種との速やかな連携により適切な対応策を講じ、重症化を防ぐ。
 - ② 経費支出に注目し、前年度より経費削減に取り組む。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 職員一人ひとりが入居者の安全確保を最優先できる体制を整える。
 - ① 施設の立地条件を把握し適切な対応が行えるよう事前に調査を行う。
 - ② 地域の防災訓練に参加する。
 - ③ 災害時に、備品など飛散しないよう、環境整備を定期的に行う。
 - ④ 事業継続計画を検証し、適宜、見直しをする。

有料老人ホーム ながはまの里

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 品質向上のために要となる職員を育成する。
 - ① 事業所内で勉強会を開催する。
 - ② 専門的な知識や技術が習得できるよう外部研修への参加
 - ③ 関係事業所と連携し、入居者の情報共有によりサービス質の向上に努める。
 - (2) 働きやすい職場環境
 - ① 人員を確保する事で余裕のある介護を目指す。
 - ② 業務内容等の見直しを定期的に行う。
 - ③ 有給休暇取得率の向上を図る。

- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 事業所の収支について職員が関心を持つよう取り組む。
 - ① 減収とならないように入居者の体調管理等に努める。
 - ② ヒヤリ・ハット報告書の分析及び検証し、重大事故を未然に防ぐ。
 - (2) 安定した収入を目指す。
 - ① スムーズな入居調整を行い、空床日数を作らない。
 - ② 広報活動を継続し、常に待機者を3名以上確保していく。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 地域住民との連携強化に努める。
 - ① 地域住民参加型の防災訓練やイベントを開催する。
 - ② BCPなどの防災マニュアルの見直しを図る。
 - ③ 防災に関する研修に参加し知識習得に努め、有事に備えた対策を講じていく。

有料老人ホーム ゆりぐるまの里

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 研修や勉強会などに積極的に参加できるように努める。
 - ① 職員が研修に参加できるよう勤務調整を行い、内部研修を年2回以上、外部研修を年1回以上行い、学習機会が多く得られるよう計画する。
 - ② 職員間で業務している上での疑問点等があれば話し合い、必要に応じて専門職にアドバイスが受けられるよう積極的に取り組む。

- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理をする。
 - (1) 安定した事業運営を意識し、目標の達成につなげる。
 - ① 在籍率97%、40件以上の広報活動、1~2名の待機者確保をする。
 - ② 体調管理にも努め、入院になった際の医療機関との情報収集や状態に応じた退居の見極め、新規入居へつなげる早期調整等を確実に実行できるよう取り組む。
 - ③ 転倒による骨折での入院の減少を目標に、居室環境の整備や福祉用具の積極的な活用など、専門職にも意見を求め取り組んでいく。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 地域との関係性の維持に努める。
 - ① 行政機関とも連携し、可能な範囲で地域との関わりを継続する。
 - ② 災害時等においても周囲の支援が得られるよう、日頃から近隣との関係に気を配り、地域の一員としての役割を果たす。
 - ③ 定期的に避難訓練を行い、避難時間の検証と課題を明確にし、災害時に迅速に避難行動がとれるように備えていく。

デイサービスセンターすみれ

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 自ら考え行動することができる人材の育成に努める。
 - ① 事故防止や介護技術に関する研修を受講する。
 - ② 職員間で話し合い、統一したケアを行う。
 - ③ ヒヤリハットの情報共有を行い、事故を防止する。
 - ④ 適宜マニュアルの見直しを行う。
 - (2) 自立支援を目指したサービス提供に努める。
 - ① 専門的知識をもって利用者のケアを行う。
 - ② 利用者の状態、状況を把握しニーズを的確につかむ。

- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 利用者の健康管理を行うことで安定した事業運営に努める。
 - ① 他事業所と協力し、身体状況の把握に努める。
 - ② 担当者会にて情報交換、情報収集を行う。
 - (2) 事業目標を明確に定め、進捗状況を把握し、目標達成に努める。
 - ① 進捗状況一覧表を用いて進捗状況を把握する。
 - ② 毎月、実績を確認し、収入分析を行う。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 様々な自然災害に備え、避難訓練を行う。
 - ① 定期的に地震・火災・風水害の避難訓練を行う。
 - ② 必要に応じて避難計画を見直す。
 - (2) 事業継続計画を検証する。
 - ① 事業継続計画を職員に周知する。
 - ② 必要に応じて事業継続計画を見直す。

デイサービスセンターさくら

年度目標

- 1 高品質なサービスの実現のために、職員自らが考え行動できる人材育成に取り組む。
 - (1) 自ら考え行動することができる人材の育成に努める。
 - ① 認知症や介護技術に関する研修を受講する。
 - ② 職員間で報告・連絡・相談を徹底し、統一したケアを実践する。
 - ③ リスクマネジメント力（危機管理能力）を強化し、事故を防止する。
 - ④ 必要に応じてマニュアルの見直しを行う。
 - (2) 自立支援を目指したサービス提供に努める。
 - ① 専門的知識をもって利用者のケアを行う。
 - ② 利用者の状態、状況を把握しニーズを的確につかむ。

- 2 安定した事業運営のために、事業目標を明確に定めるとともに進捗状況を把握し、徹底した目標管理する。
 - (1) 利用者の健康管理を行うことで安定した事業運営に努める。
 - ① 多職種と協力し、個々の身体状況の把握に努める。
 - ② 担当者会にて情報交換、情報収集を行う。
 - (2) 事業目標を明確に定め、進捗状況を把握し、目標達成に努める。
 - ① 進捗状況一覧表を用いて進捗状況を把握する。
 - ② 収入・実績を確認し、結果の要因を考える。

- 3 様々な自然災害に備え、避難訓練及び事業継続計画を検証する。
 - (1) 様々な自然災害に備え、避難訓練を行う。
 - ① 定期的に地震・火災・風水害の避難訓練を行う。
 - ② 必要に応じて避難計画を見直す。
 - (2) 事業継続計画を検証する。
 - ① 事業継続計画を職員に周知する。
 - ② 必要に応じて事業継続計画を見直す。

総合福祉ゾーン

天空の里

- ・総合福祉ゾーン天空の里 ……P75
- ・特別養護老人ホームそよ風 ……P76
- ・養護老人ホーム山吹 ……P77
- ・ケアハウスさくら草 ……P78
- ・デイサービスセンターかわせみ ……P79
- ・デイサービスセンターこまどり ……P80
- ・グループホームふくじゅ草の里 ……P81

総合福祉ゾーン天空の里

基本方針

総合福祉ゾーン天空の里は、嶺北地域の福祉拠点として、利用者やご家族、地域の方々に信頼され、求められる地域福祉のニーズにお応えできる事業運営を目指していきます。

また、嶺北地域における地域共生社会の実現に向け、各関係機関と連携を図り、地域で抱える課題解決の一翼を担えるよう取り組んでまいります。

年度目標

- 1 職員の指導力、実践力を高め、利用者満足度の高いサービス提供を目指す。
- 2 運営目標の明確化、経営に対する意識向上を図ることで、安定した事業運営を目指す。
- 3 地域住民、関係機関と協働し、地域で抱える課題解決に取り組む。

特別養護老人ホームそよ風

年度目標

- 1 職員の指導力、実践力を高め、利用者満足度の高いサービス提供を目指す。
 - (1) 情報やデータを活用し、統一された質の高いケアを提供する。
 - ① 個々の状態や骨密度等のデータを分析し、福祉用具や生活環境を見直すことで利用者に負担をかけない安全な介護の提供に努める。
 - ② O-HATの実施や口腔ケアを推進することで誤嚥性肺炎を防止する。
 - (2) 多職種間での連携を強化し、ケア内容の充実を図る。
 - ① 入院者数及び入院日数の減らすため、利用者の体調管理を徹底する。
 - ② 看取りの研修・伝達講習を実施し、看取りケアへの取り組みを強化する。
 - ③ ヒヤリ・ハット、事故のカンファレンスで原因分析し、適切な防止策を講じることで重大事故を防止する。
 - (3) 人材確保や育成に注力し、職員の定着を図る。
 - ① 外国人職員の能力を的確に見極め、個々に応じた適切な助言・指導を行い、業務遂行能力の向上を図る。
 - ② 不安なく業務に取り組めるようOJTを活用した指導を実施する。
- 2 運営目標の明確化、経営に対する意識向上を図ることで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 施設運営の健全・安定化を図るため、広報活動や情報の発信を行い、地域と密に繋がる施設運営を目指す。
 - ① 待機者に関するデータを分析し、効率的で効果的な広報活動を展開し待機者の確保に努める。
 - ② 運営会議にて全職種が施設の収支に関するデータを収集し、各自で対策を講じ実践していく。
- 3 地域住民、関係機関と協働し、地域で抱える課題解決に取り組む。
 - (1) 地域の声に耳を傾け、ニーズに応じたサービスの提供、地域に根差し開かれた施設運営を目指す。
 - ① 地域の介護困窮者等の困難事例を積極的に受け入れる体制を整え、地域の資源としての役割を担う。
 - ② 地域行事へ積極的に参加し、地域との関わりを維持する。

養護老人ホーム 山吹

年度目標

- 1 職員の指導力、実践力を高め、利用者満足度の高いサービス提供を目指す。
 - (1) 利用者個々のアセスメントデータを収集し、日々のケアに反映することで根拠に基づいたサービス提供に繋げる。
 - (2) 職員間での情報共有の活発化を図り、安心・安全なケアの提供に努める。
 - ① 多職種協働の強化を図る。
 - ② ICTを活用しコミュニケーション体制を構築する。
 - ③ サービスの質向上を目指し、研修や勉強会に参加できるよう支援する。

- 2 運営目標の明確化、経営に対する意識向上を図ることで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 年間稼働率 97%以上の目標達成に向けて、各専門職が緊密に連携を取り利用者の体調管理を行う。
 - ① 体調不良や加齢による心身状態低下を予防し利用者の健康の保持に努める。
 - ② ヒヤリハット報告を活用し、リスクマネジメント力を強化し、事故防止に努める。
 - ③ 感染症予防に向けて、標準予防策を徹底し、「持ち込まない」「広げない」を周知徹底する。
 - (2) 職員ひとり一人が経営への関心もてるよう、毎月の職員会で収支状況を報告し、経営状態について意見交換する機会をつくる。

- 3 地域住民、関係機関と協働し、地域で抱える課題解決に取り組む。
 - (1) 利用者・職員の安全を守るため災害対策に向けて実効性のあるマニュアルの見直し及び訓練を実施する。
 - (2) 地域の福祉活動に参加し貢献することで社会福祉法人としての意義を果す。

ケアハウスさくら草

年度目標

- 1 職員の指導力、実践力を高め、利用者満足度の高いサービス提供を目指す。
 - (1) 職員の資質向上、人材育成に取り組む。
 - ① 介護サービスを担う職員に対する研修の実施、外部研修への参加。
 - ② 職員のスキルアップを図り、サービスの質の向上に取り組む。
 - (2) 利用者のニーズに沿った介護サービスの提供。
 - ① 常に利用者の視点から、サービスのあり方を考え実践していく。
 - ② 利用者個々のライフスタイルに即した居室環境づくりに努める。
 - (3) 誤嚥性肺炎の予防に繋げる。
 - ① 年2回のOHATの評価により、口腔内の清潔保持、必要に応じ歯科受診を行い、口腔衛生管理に努める。
- 2 運営目標の明確化、経営に対する意識向上を図ることで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) リスクマネジメントを強化し事故防止に努める。
 - ① ヒヤリハット報告書を分析、対策を講じることで、事故防止への意識向上を図る。
 - ② ヒヤリハット報告書を活用して職員の気付きの目を養い、重大事故を未然に防いでいく。
 - ③ 多職種間で多角的に意見を出し合い、環境面を見直すことで、重大事故の発生を防ぐ。
 - (2) 関係機関との連携を強化し稼働率の安定化を図る。
 - ① 関係機関との情報共有を密に行うことで、迅速な入退去調整に繋げる
- 3 地域住民、関係機関と協働し、地域で抱える課題解決に取り組む。
 - (1) 地域福祉における地域との繋がりの重要性を深く認識する。
 - ① 社会参加の機会を確保し、利用者の生きがいや、心身の健康維持に繋げていく。
 - ② 地域行事へ参加し交流を深めることで、地域住民の方々に親しみと信頼を持っていただける事業所を目指す。
 - (2) 防災力強化を図る。
 - ① 大規模災害に備え地域の防災訓練に参加し、避難経路、ハザードマップの周知を行うことで防災意識を高める。

認知症デイサービスセンターかわせみ

年度目標

- 1 職員の指導力、実践力を高め、利用者満足度の高いサービス提供を目指す。
 - (1) 職員の資質向上と人材育成に取り組む
 - ① 必要な資格取得に向けて計画的に取り組む
 - ② 法人内部、外部研修に参加し知識及び技術の向上に努める。
 - ③ 事業所内での伝達講習を実施する。
 - (2) 職員が意欲的に働けるよう、適切な評価を行う
 - ① 定期的に職員面談を行い、悩みや不満、不安を取り除く。
 - ② 職員会を通してスタッフ間での情報共有を行い、業務に対する意識統一を図る。

- 2 運営目標の明確化、経営に対する意識向上を図ることで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 利用者の健康管理に努め、安定した稼働に繋げる。
 - ① 心身状態の観察と把握を行い、異常の早期発見を行う。
 - ② 関係事業所と情報共有を密に行い、心身の状態変化に合わせた生活が送れるよう支援していく。
 - ③ 周囲の感染状況にアンテナを張り、施設内での感染症の蔓延を未然に防ぐ。
 - (2) 利用者の重大事故防止に努める。
 - ① 多角的な視点からヒヤリハット報告書を作成し、様々なリスクに対する気付きの視点を養う。
 - ② 多職種と連携し、健康状態、身体機能に応じた環境設定に努める。

- 3 地域住民、関係機関と協働し、地域で抱える課題解決に取り組む。
 - (1) 利用者が住み慣れた地域の中で安心して生活できる。
 - ① 非常災害時マニュアルの見直し、確認を定期的実施する。
 - ② 関係事業所と協力体制を構築し、実効性のある防災訓練を実施する。
 - (2) 地域住民と情報共有に努める。
 - ① 定例会などに参加し、地域の情報収集に努める。
 - ② 地域開催の防災訓練に参加し、地域の危険個所の把握、避難経路を確認する。

デイサービスセンター こまどり

年度目標

- 1 職員の指導力、実践力を高め、利用者満足度の高いサービス提供を目指す。
 - (1) 外国人職員を含めた、職員個々のケア技術向上に努める。
 - ① 事業所内で学習機会を確保し、専門的知識を身につける。
 - ② 利用者の状態変化について、職員間でこまめに情報共有を行う。
 - ③ 認知症ケア研修に参加し、認知症高齢者の理解を深める。
 - (2) 働きやすい職場環境の整備を行う
 - ① 計画的に有給休暇を取得し、ワーク・ライフ・バランスを推進する。
 - ② 定期的に業務内容や業務分担を見直し、業務の効率化を図る。
 - ③ 前傾姿勢にならない環境作りに取り組み、職員の腰痛予防に繋げる。

- 2 運営目標を明確化することで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した事業運営を目指す。
 - ① 居宅介護支援事業所と協働して空き枠管理に努め、稼働率向上に取り組む。
 - ② 利用者個々のニーズに沿ったサービスを提供し、活動意欲の向上を図る。
 - (2) リスクマネジメントを強化し、事故防止に努める
 - ① ヒヤリ・ハット報告を活用し、安全に過ごせる環境を整える。
 - ② 多職種と連携し、こまめに情報共有を行うことで、利用者の状態変化に沿った早期の対応を講じる。

- 3 地域の福祉拠点として、地域住民との連携強化に努める。
 - (1) 地域に根差し必要とされる事業所を目指す。
 - ① 感染状況を見ながら、地域行事への参加やボランティアの受け入れなど、地域との交流機会を増やす。
 - ② 地域主催の研修会に参加し、地域資源や地域の実情把握に努める。
 - ③ 地域包括支援センターと協力し、高齢者の生活を包括的・継続的に支えていく。

グループホーム ふくじゅ草の里

年度目標

- 1 職員の指導力、実践力を高め、利用者満足度の高いサービス提供を目指す。
 - (1) ノーリフティングケアを導入し、安全に働ける職場づくりに向けた改革を進めていく。
 - ① 多職種と協働し、福祉用具の充実と利用者に合わせて安全なケアを提供する。
 - ② ノーリフティングケアを推進し、職員の腰痛予防や利用者のQOL向上を進める。
 - (2) サービスの質の向上を図る。
 - ① 全職員が研修や勉強会に参加できるよう、研修計画を立て実践する。
 - ② 外国人職員を職員全体で育成できるよう、目標設定し指導・助言を行う。
 - ③ 個別ケアの充実を図るとともに、統一したケアを提供する。
- 2 運営目標の明確化、経営に対する意識向上を図ることで、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 稼働率98%以上を継続目標にし、収支における課題分析と改善策を明確化する。
 - (2) ヒヤリハット報告（月15件以上）の充実、事故分析を徹底し、リスクマネジメント力の強化を図る。
- 3 地域住民、関係機関と協働し、地域で抱える課題解決に取り組む。
 - (1) 地域の一員として自覚し、積極的に行事や集いの場に参加し、情報交換ができる関係性を構築していく。
 - ① 地域の行事や清掃活動、非常災害訓練などに参加する。
 - ② 運営推進会議を活用し、地域の実情把握や課題の抽出など情報収集に努める。

総合福祉ゾーン やだけの里

- ・総合福祉ゾーンやだけの里 ……P83
- ・特別養護老人ホーム矢野 ……P84
- ・小規模多機能型居宅介護響 ……P85
- ・デイサービスセンター彩 ……P86
- ・居宅介護支援事業所蒼 ……P87

総合福祉ゾーン やだけの里

基本方針

総合福祉ゾーンやだけの里は、利用者や家族はもとより、地域の方々に安心を実感していただけるよう、質の高いケアの提供、防災体制の構築、地域コミュニティとの連携に努めてまいります。

年度目標

- 1 4大目標を推進していくうえで、評価、分析結果を意識した取り組みを行う
- 2 労働環境の整備や教育指導の充実を図り、職員の定着率向上、新たな人材確保に努める
- 3 非常災害に向けての体制強化や地域住民との連携再開に向けての取り組みを実施する

特別養護老人ホーム 矢野

年度目標

- 1 4大目標を推進していくうえで、評価、分析結果を意識した取り組みを行う
 - (1) 4大目標の取り組み推進
 - ① ノーリフティングケアに取り組み、身体および機材の正しい使用方法を学び、入居者・職員共に安心、安全な介護を行う
 - ② 骨密度測定の結果と利用者の身体機能や行動に基づき、生活環境を整えることで骨折事故を予防する
 - ③ 口腔ケア推進士を中心に口腔ケア・嚥下・誤嚥について研修を定期的に行う
 - ④ 専門的な認知症ケアの推進により、入居者の自立支援に繋げる
 - 2 労働環境の整備や教育指導の充実を図り、職員の定着率向上、新たな人材確保に努める
 - (1) 労働環境の整備
 - ① 多職種が専門性を発揮し、それぞれの役割を明確化させ、連携を強化することで質の高いサービスを提供する
 - ② 定期的に会議を実施し業務改善を行い、働きやすい環境を整備する
 - (2) 教育指導の充実
 - ① 新人研修及び、現任研修を活用し、職員の知識と技術向上に努める
 - ② 研修で学んだ知識、技術の伝達講習を行い職員間の資質向上に繋る
 - (3) 職員の定着率向上、新たな人材確保
 - ① 常日頃から職員間のコミュニケーションを密に図り、また、随時、職員面談を実施することで、悩みやストレス解消に努める
 - ② 就職説明会等の実施による人材確保に努める
- 3 非常災害に向けての体制強化や地域住民との連携再開に向けての取り組みを実施する
 - (1) 非常災害に向けての体制強化
 - ① 避難訓練の年間計画を作成し、定期的に訓練を行う
 - ② 備蓄品、避難経路や誘導手順、方法を定期的に確認し非常災害時に備える
 - (2) 地域住民との連携再開
 - ① 地域活動への参加などにより、協力体制を強化する

小規模多機能型居宅介護 響

年度目標

- 1 4大目標を推進していくうえで、評価、分析結果を意識した取り組みを行う
 - (1) リスクマネジメント力の向上を図る
 - ① 利用者の疾患や生活環境から行動把握し、事故予防に努める
 - ② ヒヤリハット報告書を共有し、環境やケア方法を見直すことで安心安全なサービス提供に繋げる
 - (2) 認知症ケアの専門性を高める
 - ① 認知症ケアの研修に積極的に参加し知識や技術の向上に繋げる
 - (3) 感染症対策を徹底することで予防や蔓延防止に努める
 - ① 職員が感染源とならぬよう日頃から自らの健康管理に努める
 - ② 感染症発症時に速やかに対応できるよう、感染症に関する研修や訓練に参加する

- 2 労働環境の整備や教育指導の充実を図り、職員の定着率向上、新たな人材確保に努める
 - (1) 組織力・チーム力の向上
 - ① 個々に応じたケア方法の見直しや効率的に業務改善を行い、サービスの質の向上ができるよう申し送りや職員会を重視する
 - ② 会議の場で一人ひとりが発言できるような関係性を作ることで、職員が同じ意識や目標をもって業務遂行していく

- 3 非常災害に向けての対策強化や地域住民との連携再開に向けての取り組みを実施する
 - (1) 地域と連携した防災対策の強化
 - ① 地域密着型サービス事業所としての役割を担い、地域の実情に則した防災訓練を実施する
 - (2) 地域から必要とされる事業所づくりを目指す
 - ① 運営推進会議で地域のご意見やご指導をいただきながら地域のニーズに則した受け入れや提案を行う
 - ② コロナ感染の状況を見ながら、地域行事へ参加に加え、交流スペースを活用した地域住民との交流を再開できるように体制を整える

デイサービスセンター彩

年度目標

- 1 4大目標を推進していくうえで、評価、分析結果を意識した取り組みを行う
 - (1) 利用者が安心安全な環境の下、過ごしやすい環境づくりを行う
 - ① 事故の分析を徹底して行い、事故の再発防止に努める
 - ② 職員間の情報共有を徹底し、チームケアを実践する

- 2 労働環境の整備や教育指導の充実を図り、職員の定着率向上、新たな人材確保に努める
 - (1) 職員のスキルアップを図る
 - ① 外部、内部問わず、積極的に研修に参加し、個々の介護技術を上げる
 - ② 研修内容を職員間で情報共有し、意見交換を行う
 - (2) 働きやすい環境の整備を行う
 - ① 日々の業務の見直しを適宜行い、業務の効率化を図る
 - ② ミーティングの頻度を増やし、職員間の風通しを良くする

- 3 非常災害に向けての体制強化や地域住民との連携再開に向けての取り組みを実施する
 - (1) 様々な災害時の対応の周知を行う
 - ① 災害時の送迎方法、送迎場所など、家族や関係事業所を通して定期的に確認する
 - (2) 地域行事や地域住民との連携を図る
 - ② 地域行事への参加再開、地域のボランティアの受け入れを行う

居宅介護支援事業所 蒼

年度目標

- 1 4大目標を推進していくうえで、評価、分析結果を意識した取り組みを行う
 - (1) 外部研修やオンライン研修、法人内で開催される内部研修等へ積極的に参加し、アセスメント力の向上に努めることで、質の高い計画作成を行う
 - (2) 各専門職との連携を図ることで、利用者の日常生活を把握し、在宅生活が継続できるよう支援を行う

- 2 労働環境の整備や教育指導の充実を図り、職員の定着率向上、新たな人材確保に努める
 - (1) 有給管理を徹底し、計画的な有給取得に努める
 - (2) 内外の研修に積極的に参加し、資質の向上に努める

- 3 非常災害に向けての体制強化や地域住民との連携再開に向けての取り組みを実施する
 - (1) 非常災害時における利用者の避難場所の確認、周知を徹底する
 - (2) 地域・施設での防災訓練やミーティングに積極的に参加し、最新情報の入手に努める

赤とんぼの里

- ・ 赤とんぼの里 ……P89
- ・ ケアハウスアゼリア（特定） ……P90
- ・ トマト指定通所介護センター ……P92
- ・ トマト指定居宅介護支援センター ……P94

赤とんぼの里

基本方針

根拠に基づいたサービスの質改善、職員個々のレベルに応じた人材育成に努めることで、誰もが安心して生活できる施設を目指します。

また、広報活動や実習生の受け入れ等の地域社会との結びつきを大切にしながら、地域福祉の発展に貢献します。

災害対策や感染症防止対策に日々取り組むと同時に、発生した場合の事業継続にかかる対応力向上に努めます。

年度目標

- 1 職員個々のレベルに応じた人材育成に努めるとともに、データアセスメントに力を入れ、根拠に基づいたケアプランの作成、質の高いサービス提供に繋げていく。
- 2 事業運営進捗状況について定期的に検討を重ねることで、運営に対する意識向上を図り、目標達成に向けて職員一丸となって取り組む。
- 3 広報活動や実習生の受け入れ、自治会との合同避難訓練等をつうじて、地域での存在意義の確立を目指す。

ケアハウスアゼリア（特定施設入居者生活介護）

年度目標

- 1 職員個々のレベルに応じた人材育成に努めるとともに、データアセスメントに力を入れ、根拠に基づいたケアプランの作成、質の高いサービス提供に繋げていく。
 - (1) 職員個々のレベルに応じた、意識、知識、技術の向上を図り、専門性を高める。
 - ① WEB 研修を含め、内部、外部研修へ積極的に参加し、専門的な知識、技術を習得する。
 - ② 伝達講習をとおして、研修内容を職員間で共有する。
 - (2) 根拠に基づいたケアプランを作成し、質の高いサービス提供に努める。
 - ① 一人ひとりに合ったケアを行うため、日常生活の状況を的確に理解し、多職種で情報を共有する。
 - ② 担当者会議、ケアカンファレンスをとおして、携わる職員全員がリスクを把握し統一したケアを行う。
 - ③ 年2回のOHATの実施により、歯科専門職との連携を密にすることで、日頃の口腔ケアの向上に努める。
- 2 事業運営進捗状況について定期的に検討を重ねることで、運営に対する意識向上を図り、目標達成に向けて職員一丸となって取り組む。
 - (1) 運営に対する意識向上に努める。
 - ① 毎月の運営会議で事業進捗状況に対する評価と課題から今後の取り組みに繋げ、収支の情報を共有することで経営意識を向上する。
 - (2) Garoon、moconavi を活用し、委員会活動、災害時情報を情報の共有、周知をする。
 - (3) 働きやすい職場環境作りに取り組む。
 - ① 有給休暇を計画的に取得し、取得率80%以上を目指す。
 - ② 年2回の職員面談をとおして職員の状況把握をする。
 - (4) 経費削減に努める。
 - ① 節電、節水を行う。
 - ② 備品は丁寧に扱い、不具合箇所の早期発見に努める。

- 3 広報活動や実習生の受け入れ、自治会との合同避難訓練等をつうじて、地域での存在意義の確立を目指す。
- (1) 広報活動を通じて事業所の取り組みや空床状況を発信するとともに、地域ニーズの把握に努め、待機者確保に繋げる。
 - (2) 実習生を積極的に受け入れる。
 - (3) 調和のとれた安全安心な地域に開かれた施設環境を構築する。
 - ① 福祉避難所として実効性のある適切な対応ができるよう、非常災害時の対応内容を確認し、地域との連携を図る。
 - ② 最新のハザードマップ、マニュアルを周知し、地域と連携を図りながらハザードマップの利活用を積極的に行う。

トマト指定通所介護センター

年度目標

- 1 職員個々のレベルに応じた人材育成に努めるとともに、データアセスメントに力を入れ、根拠に基づいたケアプランの作成、質の高いサービス提供に繋げていく。
 - (1) 職員の知識やレベルに合わせた教育を行い、質の高いサービスの提供に努める。
 - ① 専門性に特化したスキルを身につける為、一人外部研修 1 回、内部研修 2 回参加する。
 - ② 研修に参加した職員は伝達講習を行い、情報を共有する。
 - (2) 根拠に基づいた通所介護計画書の作成を行う。
 - ① 担当職員が各々の利用者に評価表を用いてアセスメントを行い、適時情報の共有を行うことで個別性のある計画書の作成に繋げる
 - ② 担当者会議等に参加し、情報の共有と多職種での連携を図る。
- 2 事業運営進捗状況について定期的に検討を重ねることで、運営に対する意識向上を図り、目標達成に向けて職員一丸となって取り組む。
 - (1) 事故を未然に防ぐ為、ヒヤリハット報告書を一人 1 日 1 枚提出し、内容を事業所会議にて検討する。
 - (2) 職員が働きやすい職場の環境づくりを目指す。
 - ① 計画的な有給休暇の取得に努める。
 - ② 職員間での情報の共有を行う為、moconavi を活用する。
 - (3) 事業所全体で経費削減に努める。
 - ① 備品や物品を丁寧に扱う。
 - ② 毎日室内温度を確認し、光熱費を確認し記録することで節電や節水等に努める。
- 3 広報活動や実習生の受け入れ、自治会との合同避難訓練等をつうじて、地域での存在意義の確立を目指す。
 - (1) 地域との連携体制の確立に努め、安心安全な職場環境の構築を目指す。
 - ① BCP、BCM に則り様々な災害に備えた防災訓練を行う。
 - ② ハザードマップや自治体の最新の情報を得て、事業所会議等で発信し、

職員に周知する。

- ③ トライやるウィークや各種学校からの実習生を受け入れる。
- ④ 毎月40件以上の広報活動に出向く。
- ⑤ 龍野西圏域ケア会議に参加し、事業所のアピールを行う。

トマト指定居宅介護支援センター

年度目標

- 1 職員個々のレベルに応じた人材育成に努めるとともに、データアセスメントに力を入れ、根拠に基づいたケアプランの作成、質の高いサービス提供に繋げていく。
 - (1) 自己のスキルアップに繋がる研修へ参加しケアマネジメント力や専門知識・技術の習得を図る。
 - (2) 利用者の状態や取り巻く状況に関する情報を収集・分析し、介護予防や自立支援を目指したケアプラン作成に努める。

- 2 事業運営進捗状況について定期的に検討を重ねることで、運営に対する意識向上を図り、目標達成に向けて職員一丸となって取り組む。
 - (1) 毎月開催される運営会議に参加し、運営目標の再認識・進捗状況の確認を重ね、その時の課題を明確にして取り組みを行う。
 - (2) 各委員会からの情報発信を受け活動内容を把握し、職員への周知に努める。

- 3 広報活動や実習生の受け入れ、自治会との合同避難訓練等をつうじて、地域での存在意義の確立を目指す。
 - (1) 龍野西圏域ケア会議や行政主催の情報共有の場に積極的に参加する。
 - (2) 地域での行事や訓練への参加・広報活動に力を入れ、地域との新たなネットワークづくりへと繋げ、居宅としての存在を示す。

特別養護老人ホーム 安寿の里

・ユニット型特別養護老人ホーム安寿の里 ……P96

ユニット型特別養護老人ホーム 安寿の里

基本方針

特別養護老人ホーム安寿の里は、ご利用者・ご家族の皆様が安心して生活を送ることができるよう地域に根ざし、地域に必要とされる施設を目指します。

また、質の高いサービス提供に向けた人材育成とともに、安定した経営基盤の確立に努めます。

感染症対策や災害時対策の体制強化を行い、地域と連携した危機管理対策に取り組めます。

年度目標

- 1 質の高いサービスの提供を目指し、介護のプロフェッショナルを育てる。
 - (1) 科学的データと根拠に基づき、多職種で連携を密に行い、個別ケアを目指す。
 - (2) 定期的な施設内研修の実施と積極的に施設外研修へ参加し、プロフェッショナルとしての自覚を持つ。
 - (3) 資格取得を推進し、スキルアップと達成感につなげる。
- 2 安定した経営基盤をつくる。
 - (1) 定期的な広報活動により待機者を確保し、速やかな入所調整を行い目標稼働率を保つ。
 - (2) 運営目標を明確化し、全職員が運営に対して目標意識を持つ。
 - (3) 求人活動のネットワークを保つとともに、求人広告や就職フェア参加等へ積極的に取り組み、人材確保に努める。
 - (4) 職員一人ひとりが施設物品を適切に取り扱い、コストに対する意識を高める。
- 3 感染症や災害等に対して危機管理体制を強化する。
 - (1) 地域から発信される感染情報に注目し、社会人として自覚のある感染予防対策を徹底する。
 - (2) 感染症シュミレーションを実施し、対策が実行できる知識を習得する。
 - (3) 地域と協働した原子力災害や風水害の訓練を実施し、福祉施設としての必要な役割を担う

新居浜事業所

- ・ 新居浜事業所 ……P98
- ・ 小規模特別養護老人ホームつばき ……P99
- ・ グループホームけやきの里 ……P100
- ・ グループホームあかがね ……P101
- ・ グループホームしおさい ……P102

新居浜事業所

基本方針

新居浜事業所では、誰もが自分らしい生活を安心して営めるよう、個々の尊厳を大切にした質の高いサービスを提供します。

また、地域福祉の発展に貢献し、信頼される福祉施設となるよう、安定した事業運営を目指します。

年度目標

- 1 誰に対しても思いやりをもち、質の高いサービスを提供する。
- 2 事業目標を明確にし、安定して事業運営に努める。
- 3 適切な施設整備を推進し、生活の質の向上に努める。

小規模特別養護老人ホームつばき

年度目標

- 1 誰に対しても思いやりをもち、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 同じ目線に立ち、優しさのあるケアを実践する。
 - ① 全職種が利用者個々の病状や身体状態を的確に把握し、心身状況に応じた個別ケアを提供する。
 - (2) リスクマネジメントの強化を図る。
 - ① 各職種と連携し、事故報告、ヒヤリハットを検証し、適切な事故防止対策を講じるなど安全対策を充実させることで重大事故を防止する。
 - (3) 必要な資格取得に向けて、計画的に教育する。
 - ① 計画的に施設内外研修へ参加し、職員個々のスキルアップに努める。
 - ② 介護福祉士、介護支援専門員、口腔ケア推進士等の資格取得を目指す。
 - (4) 働きやすい職場環境に取り組む。
 - ① 業務内容を見直し、業務の効率化を図る。
 - ② 定期的に面談を実施し、職員個々が相談しやすい環境を整備する。
- 2 事業目標を明確にし、安定した事業運営に努める。
 - (1) 事業所の収益について把握し、経営意識を高める。
 - ① 経営に関する会議にて、収支に関する提案や改善策を協議する。
 - (2) 待機者の確保、入所者の病状管理を徹底する。
 - ① 多職種連携により入所者の病状把握に努め、早期対応を図る。
 - ② 地域の福祉施設を中心に計画的な広報活動を展開することで地域ニーズを把握し、待機者を確保に努める。
 - (3) 防災訓練による防災意識の強化、防災備蓄を確保する。
 - ① 計画に沿った訓練の実施、大規模災害を想定した備蓄品を確保する。
- 3 適切な施設整備を推進し、生活の質の向上に努める。
 - (1) 修繕が必要な箇所のリストを作成し、計画的に実施する。
 - ① 施設内外を定期的に確認し、破損・異常箇所を記録する。
 - ② 修繕について優先順位を決定し、計画的な対応に努める。
 - (2) 必要な福祉用具を選定し、安全な生活を確保する。
 - ① 全職種協同で個々に応じた福祉用具を選定し、適切に使用する。

グループホーム けやきの里

年度目標

- 1 誰に対しても思いやりをもち、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 同じ目線に立ち、優しさのあるケアを実践する。
 - ① 認知症を理解し、笑顔で優しく対応することで、安心した生活を送ることができるよう支援する。
 - (2) リスクマネジメントの強化を図る。
 - ① リスクマネジメントについての研修を実施し、適切な事故防止対策を講じることで重大事故を防止する。
 - (3) 必要な資格取得に向けて、計画的に教育する。
 - ① 計画的に施設内外研修へ参加し、職員個々のスキルアップに努める。
 - ② 介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を目指す。
 - (4) 働きやすい職場環境に取り組む。
 - ① 日頃からのコミュニケーションを大切にし、職員一人一人の意見が反映されることで、開かれた職場環境の構築を目指す。
 - 2 事業目標を明確にし、安定した事業運営に努める。
 - (1) 事業所の収益について把握し、経営意識を高める。
 - ① 年間を通して節水、節電の意識をもち、徹底したコスト削減に努める。
 - (2) 待機者の確保、入所者の病状管理を徹底する。
 - ① 日頃から入所者の病状把握に努め、早期対応を図る。
 - ② 地域の福祉施設を中心に計画的な広報活動を展開することで地域ニーズを把握し、待機者を確保に努める。
 - (3) 防災訓練による防災意識の強化、防災備蓄を確保する。
 - ① 計画に沿った訓練の実施、大規模災害を想定した備蓄品を確保する。
 - 3 適切な施設整備を推進し、生活の質の向上に努める。
 - (1) 修繕が必要な箇所のリストを作成し、計画的に実施する。
 - ① 修繕について優先順位を決定し、計画的な対応に努める。
 - (2) 必要な福祉用具を選定し、安全な生活を確保する。
 - ① ノーリフティングケアの研修により知識を深め、個々に応じた福祉用具を選定し、適切に使用する。

グループホーム あかがね

年度目標

- 1 誰に対しても思いやりをもち、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 同じ目線に立ち、優しさのあるケアを実践する。
 - ① 常に笑顔で対応することを心掛け、利用者にとって安心できる存在に職員がなれるように努める。
 - (2) リスクマネジメントの強化を図る。
 - ① ヒヤリハットを検証し、事前対策を講じることで、重大事故を防止する。
 - (3) 必要な資格取得に向けて、計画的に教育する。
 - ① 計画的に施設内外研修へ参加し、職員個々のスキルアップに努める。
 - ② 資格試験に向けて、勉強会への参加を促すことで、資格取得の向上を目指す。
 - (4) 働きやすい職場環境に取り組む。
 - ① 毎日の挨拶を大切にし、些細な内容でも相談し合える環境作りに務める。
 - ② 年間5日以上の有給休暇取得を目指す。
- 2 事業目標を明確にし、安定した事業運営に努める。
 - (1) 事業所の収益について把握し、経営意識を高める。
 - ① 稼働率や必要経費について情報共有を行い、経営意識を高める。
 - ② 年間98%の稼働率を目指し、安定した事業運営に努める。
 - (2) 待機者の確保、入所者の病状管理を徹底する。
 - ① 入所者の病状把握に努め、早期対応を図る。
 - ② 地域のニーズを把握し、積極的な広報活動により、待機者確保に努める。
 - ③ 待機者情報を適切に更新することで、早期入所に努める。
 - (3) 防災訓練による防災意識の強化、防災備蓄を確保する。
 - ① 計画に沿った訓練の実施、大規模災害を想定した備蓄品を確保する。
- 3 適切な施設整備を推進し、生活の質の向上に努める。
 - (1) 修繕が必要な箇所のリストを作成し、計画的に実施する。
 - ① 施設備品のメンテナンスを行い、備品の故障防止に強める。
 - (2) 必要な福祉用具を選定し、安全な生活を確保する。
 - ① 個々に応じた福祉用具を選定し、適切に使用する。

グループホーム しおさい

年度目標

- 1 誰に対しても思いやりを持ち、質の高いサービスを提供する。
 - (1) 同じ目線に立ち、優しさのあるケアを実践する。
 - ① 適切な言葉遣いや尊厳のある対応を取り、ゆとりあるサービスを提供する。
 - ② 職員間で情報交換・共有を行い、統一したケアの提供に努める。
 - (2) リスクマネジメントの強化を図る。
 - ① 認知症に対する理解を深め、誰もが安全で安心して生活が送れるような支援を選択し提供する。
 - (3) 必要な資格取得に向けて、計画的に教育する。
 - ① 介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得を目指す。
 - ② 研修や勉強会に積極的に参加し、職員のスキルアップを図る。
 - (4) 働きやすい職場環境に取り組む。
 - ① 心身共にリラックス出来る様な勤務調整や有給休暇を取得する。
- 2 事業目標を明確にし、安定した事業運営に努める。
 - (1) 事業所の収益について把握し、経営意識を高める。
 - ① 関係部署と関わり、収支の把握及び現状況の理解に努める。
 - ② 月単位、年単位での目標に対する数字の理解に努める。
 - (2) 待機者の確保、利用者の病状管理を徹底する。
 - ① 日々の健康管理は医療連携を中心に行い、異常の早期発見に努める。
 - ② 広報活動を行い、各事業所と待機者の情報交換・共有を図る。
 - (3) 防災訓練による、防災意識の強化、防災備蓄を確保する。
 - ① 防災訓練に多数の職員が参加し、個々の防災知識や手順を把握する。
 - ② 備蓄品を定期的に整理整頓し、チェック表にて管理する。
- 3 適切な施設整備を推進し、生活の質の向上に努める。
 - (1) 修繕が必要な個所のリストを作成し、計画的に実施する。
 - (2) 適切な福祉用具を活用し、安全な生活環境を整備する。
 - ① 多職種と連携し適切な福祉用具を選定する。
 - ② 不足している福祉用具を確認し優先順位をつけ購入していく。

専修学校 香南学園

・専修学校 香南学園

…P104

専修学校 香南学園

基本方針

専修学校香南学園は、外国人留学生を積極的に受け入れ、確かな学力と技術を身につけるとともに、教養の向上を図り、介護福祉士国家試験全員合格を目指します。

年度目標

1 質の高い学生の確保

- (1) 学生の選抜は、学力と介護の適正を重視する。
- (2) 海外エージェント、教育機関との信頼関係を基に連携を図る。
- (3) 海外現地での教育、選抜方法を新たに構築する。

2 国家試験合格に向けた適切な指導

- (1) 日本語力向上のため、JLPTのN1・N2を目指す。
- (2) 国家試験対策に注力し、得点力の向上を目指す。
- (3) 教職員の資質向上のため、研修への参加を促進する。

3 質の高い学校教育のため、環境の充実を図る。

- (1) ルールを順守した生活指導を行う。
- (2) 適切な在留管理を行う。
- (3) 学生の心身の健康管理、安全管理を行う。
- (4) 授業の質の向上のため、学生による授業評価を受ける。

4 地域と協働した教育の推進を図る。

- (1) 特別授業を通して地域における学校の役割を構築する。
- (2) 学生の主体性を重視した防災訓練を実施する。
- (3) 地域住民と学生との積極的な交流を図る。

特別養護老人ホーム おおいずみの里

・特別養護老人ホームおおいずみの里 ……P106

特別養護老人ホームおおいずみの里

基本方針

特別養護老人ホームおおいずみの里は、利用者が住み慣れた地域の中で希望を持って生活できるよう、職員一丸となって質の高いサービスを提供します。また、人材の確保と育成に取り組むほか、地域住民や関係機関と連携し地域に根ざした施設を目指します。

年度目標

- 1 多職種が協働して利用者個々に応じた質の高いサービス提供を目指す。
 - (1) 多職種が連携しアセスメントを行い、具体的かつ、個別的なケアプラン作成につなげる。
 - (2) 客観的なデータのもと適切なケアを提供する。
 - (3) 多職種による情報共有を密にし、連携を強化する。
 - (4) リスクのある利用者の把握や事故予防に努め、4大目標達成を目指す。
- 2 計画的な人材の確保と育成を行う。
 - (1) 定期的に就職説明会に参加し人材の確保に努める。
 - (2) 職種別や職員の経験に応じた研修や勉強会を開催し多くの職員が研修に参加できるよう Zoom によるオンライン体制を整え職員の「学びたい」「スキルアップしたい」という気持ちを助け、「学びやすい」環境作りに努める。
 - (3) ノーリフティングケアを推進し、業務負担を軽減することで職員の定着を図る。
- 3 事業運営の安定化と地域との結びつきを強化することで、地域に根差した施設を目指す。
 - (1) 入所稼働率 98%、ショートステイ稼働率 90%を目標に定め、安定した事業運営に取り組む。
 - (2) 関係機関と連絡を密にし、待機者の確保に努め、スムーズな入退居調整に取り組む。
 - (3) 地域の防災訓練に参加し、福祉避難所としての役割が果たせるよう取り組む。

